

第3章 アンケート結果等による総社市の現状と課題

第3章 アンケート結果等による総社市の現状と課題

1 調査の概要

(1) こども・若者の意見を聴くアンケート調査等の実施

ア. こどもの生活実態調査の実施

市内の学校に通学する小学5年生、中学2年生のこどもを対象として「こどもの生活実態調査」（以下、「生活実態調査」という。）を実施しました。

対象	小学5年生	中学2年生
調査方法	学校を通じて配布・インターネットによる回収	
対象数	664	658
調査時期	令和6（2024）年7月15日～8月31日	
有効回収数	646	527
有効回収率	97.3%	80.1%

イ. 岡山県「結婚、出産、子育てに関する県民意識調査」結果の反映

岡山県が、20歳から49歳、高校2・3年生を対象とし、令和5（2023）年度に実施した「結婚、出産、子育てに関する県民意識調査」（以下、「結婚・出産・子育てに関する調査」という。）から、総社市の現状を把握しました。

ウ. 大学生及び未就学児からの意見聴取

令和6（2024）年8月上旬から9月下旬に総社市役所にインターンシップに来ていた大学生を対象に意見聴取を行いました。

また、令和6（2024）年9月に未就学児（認定こども園の年長児）に、国のこども大綱指標項目やこどもの権利等について意見を聴きました。

(2) 保護者の意見を聴くアンケート調査の実施

就学前児童、小学生、中学1・2年生の保護者を対象として「子ども・子育て支援に関するアンケート調査」（以下、「ニーズ調査」という。）を実施しました。

対象	就学前児童がいる世帯	小学生がいる世帯	中学1・2年生がいる世帯
抽出方法	無作為抽出法		全数
調査方法	郵送配布・郵送による回収		学校配布 インターネットによる回収
対象数	1,000	1,000	1,714
調査時期	令和6（2024）年6月13日～6月30日		令和6（2024）年 7月16日～7月31日
有効回収数	532	485	424
有効回収率	53.2%	48.5%	24.7%

(3) 子育て支援団体等からのヒアリング調査

計画策定にあたり、アンケート調査による量的調査だけでは把握が難しいニーズや課題など、こどもを取り巻く状況について、市内の子育て支援団体等を対象とし、ヒアリングを実施しました。

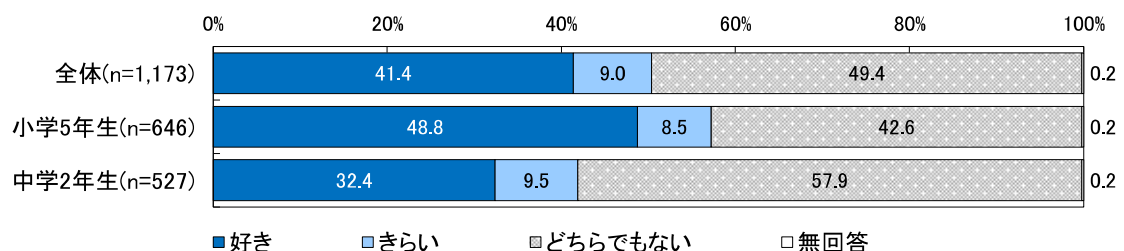
2 こども・若者の意見を聴くアンケート調査等の結果

(1) 自己肯定感について

《(ア)こどもの生活実態調査より》

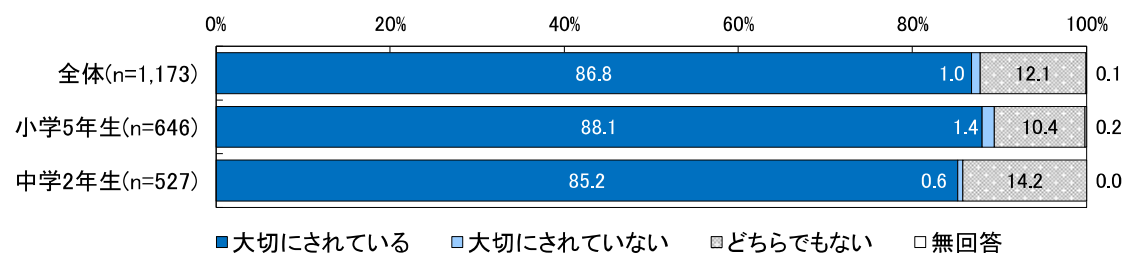
- 自己肯定感について、自分のことが「好き」と回答した割合は全体で41.4%となっています。

【図表3-1 自己肯定感（生活実態調査）】



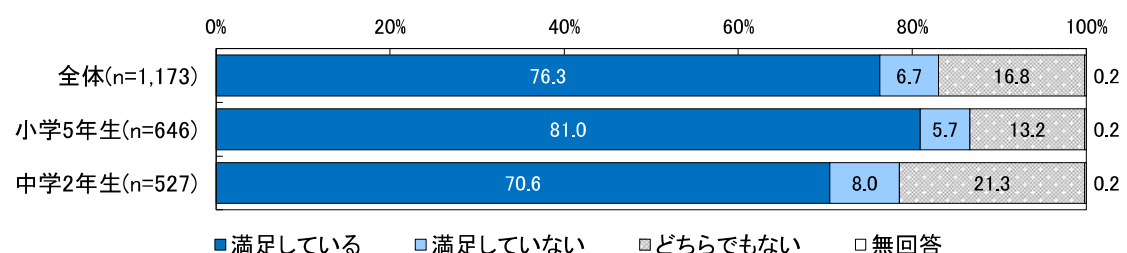
- 家族や周囲の人から「大切にされていない」と回答した割合は小学5年生で1.4%、中学2年生で0.6%となっています。

【図表3-2 家族や周囲の人から大切にされているかの感じ方（生活実態調査）】



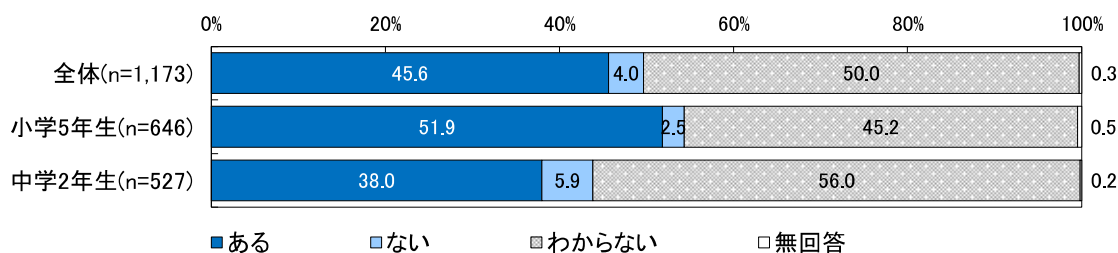
- 生活に「満足している」と回答した割合は全体で76.3%となっています。
- 生活に「満足していない」と回答した割合は小学5年生で5.7%、中学2年生で8.0%となっています。

【図表3-3 生活の満足度（生活実態調査）】



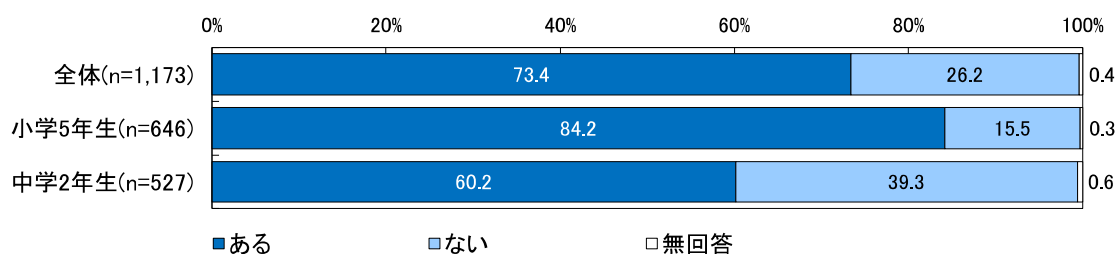
- 将来への明るい希望が「ある」と回答した割合は全体で45.6%となっています。

【図表3-4 将来への明るい希望の有無（生活実態調査）】



- 将来の夢が「ある」と回答した割合は小学5年生で84.2%，中学2年生で60.2%となっています。

【図表3-5 将来の夢の有無（生活実態調査）】



《(ウ)未就学児からの関連する意見聴取結果》

- 認定こども園の年長クラス2クラスでヒアリングを実施した結果、「自分のことは好きか」という質問に、1クラスでは一人を除く全員が手を挙げ、もう1クラスでは2/3が手を挙げました。（未就学児のヒアリング）

《課題》

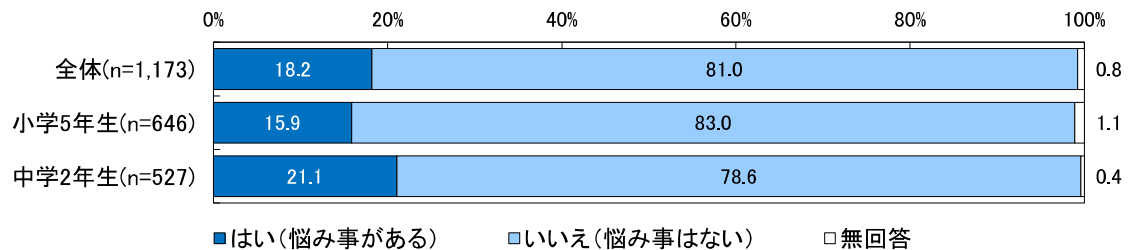
- 自分のことが好きだと感じているこどもや将来への明るい希望があるこどもの割合が、想定より低くなっているため、すべてのこども・若者を個として尊重し、一人ひとりが自分の良さや可能性に気づき、内在する力を発揮できるような取組を家庭や学校等と連携して行う必要があります。

(2) 悩みと相談先について

《(ア)こどもの生活実態調査より》

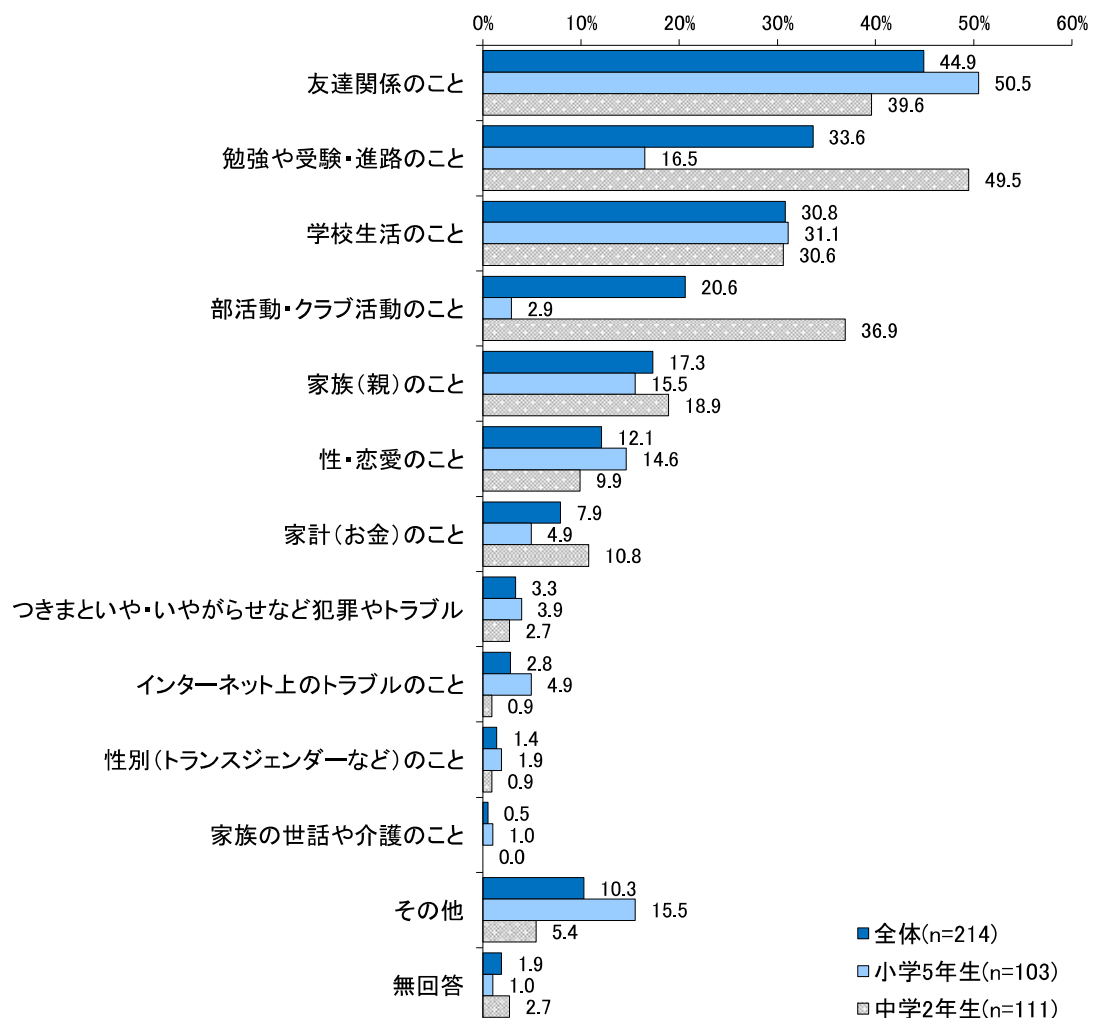
- 悩み事があると回答した割合は小学5年生で15.9%，中学2年生で21.1%となっています。

【図表3-6 悩み事の有無（生活実態調査）】



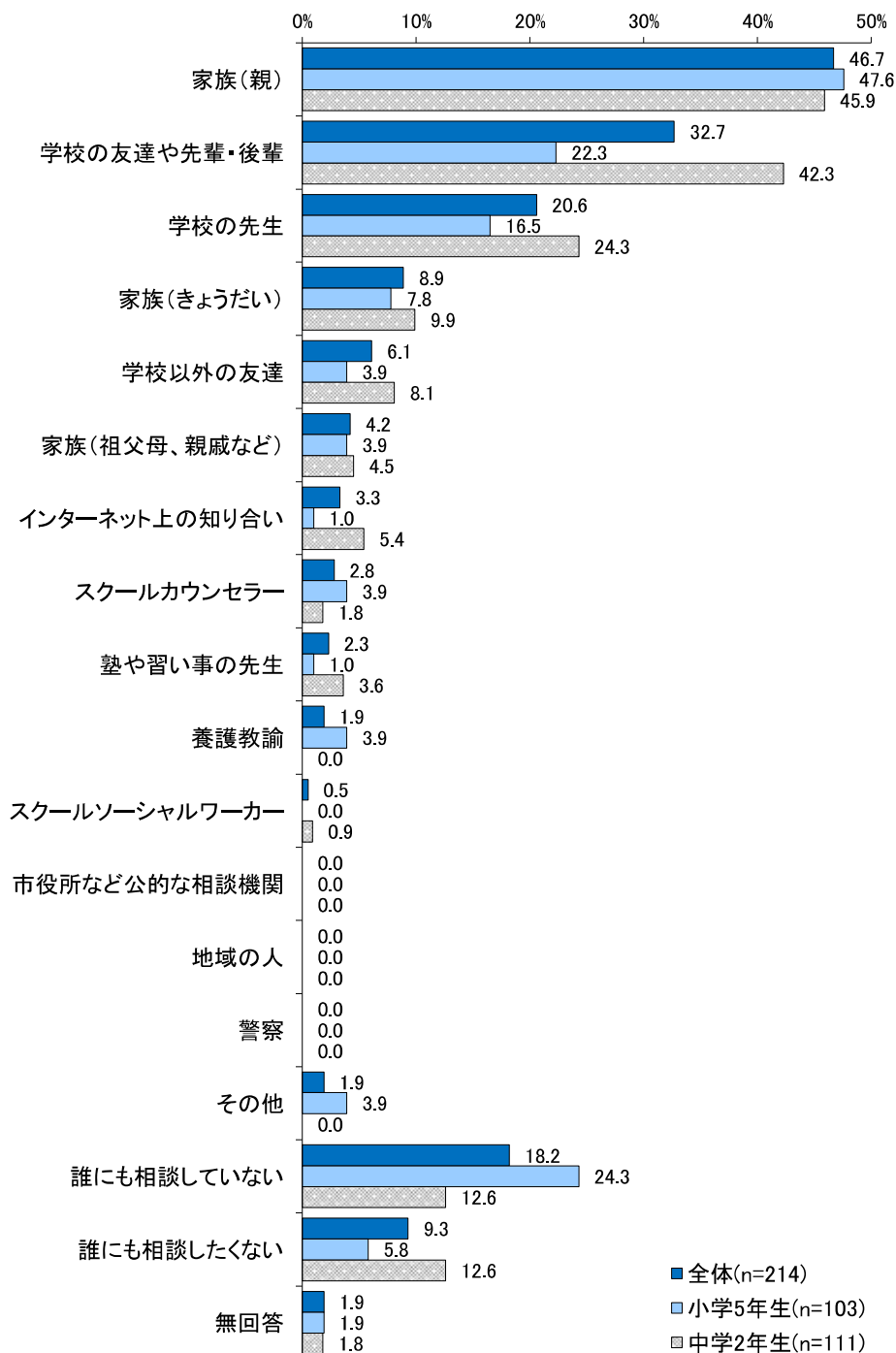
- 悩み事の内容について、小学5年生では「友達関係のこと」、「学校生活のこと」、中学2年生では「勉強や受験・進路のこと」、「友達関係のこと」、「部活動・クラブ活動のこと」が上位となっています。

【図表3-7 悩み事の内容（生活実態調査）】



- 悩み事の相談相手について、小学5年生、中学2年生ともに「家族（親）」、「学校の友達や先輩・後輩」が上位となっていますが、「誰にも相談していない」と回答した割合が小学5年生で24.3%、中学2年生で12.6%となっています。

【図表3-8 相談相手（生活実態調査）】



《課題》

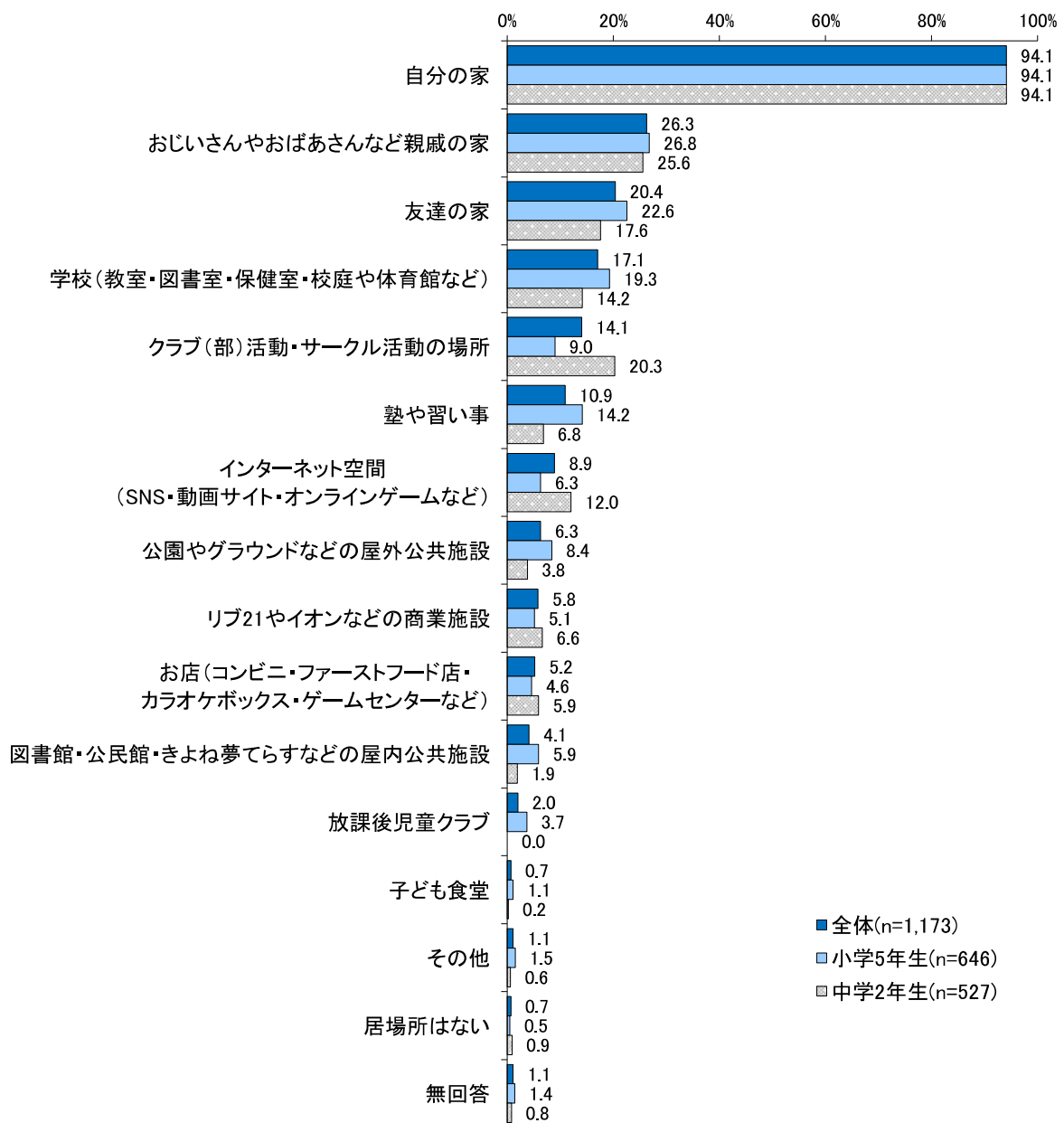
- 悩みがあっても、「誰にも相談していない」、「誰にも相談したくない」と回答したことがあることから、こどもや若者が相談できる相談窓口や相談しやすい環境づくりが重要です。

(3) 居場所について

《(ア)こどもの生活実態調査より》

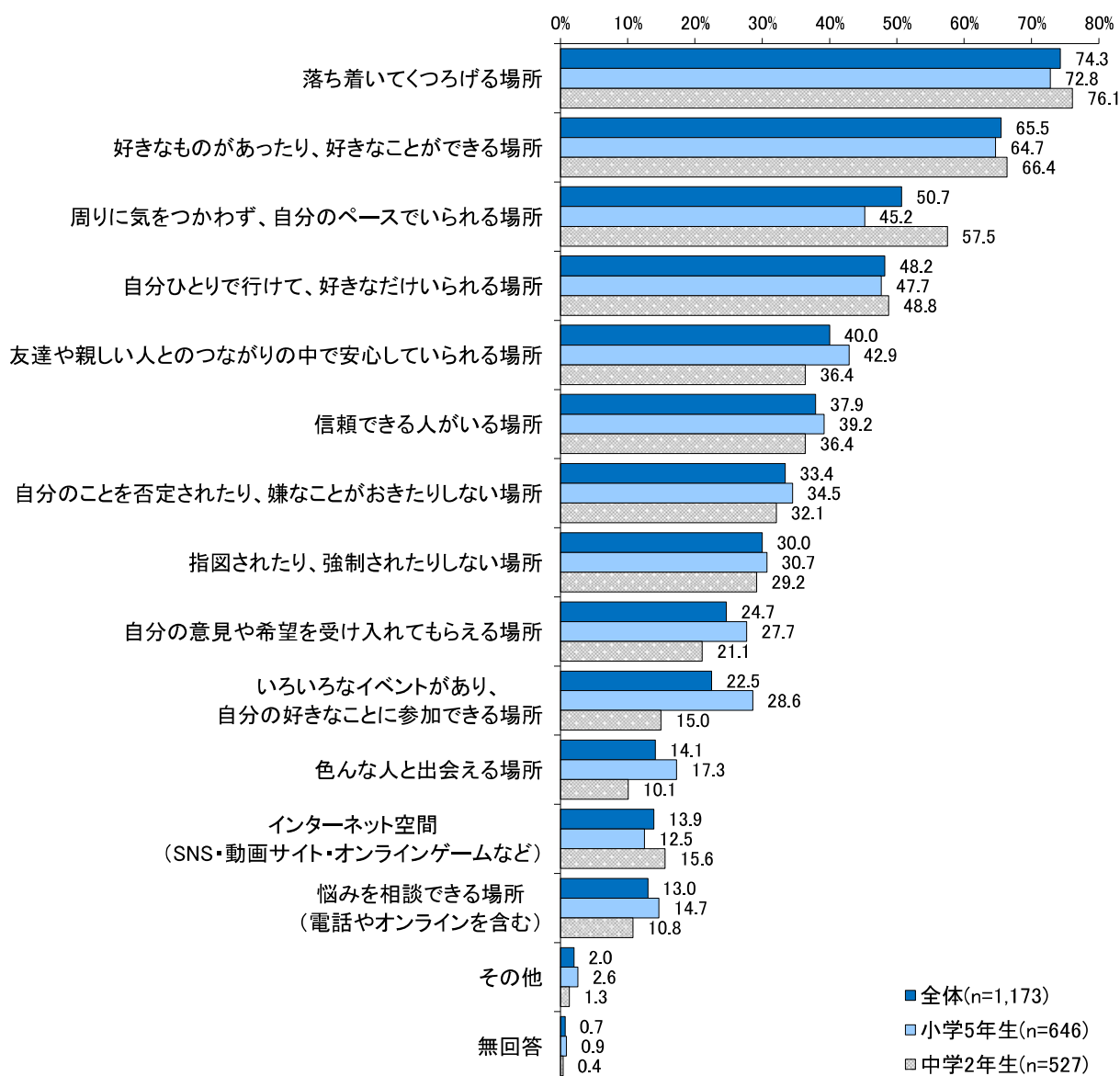
- 自分にとっての「居場所」について、「自分の家」、「おじいさんやおばあさんなど親戚の家」が上位となっており、小学5年生では「友達の家」、中学2年生では「クラブ(部)活動・サークル活動の場所」が続いています。
- 「居場所はない」と回答した割合は、小学5年生で0.5%、中学2年生で0.9%となっています。

【図表3-9 自分にとっての「居場所」(生活実態調査)】



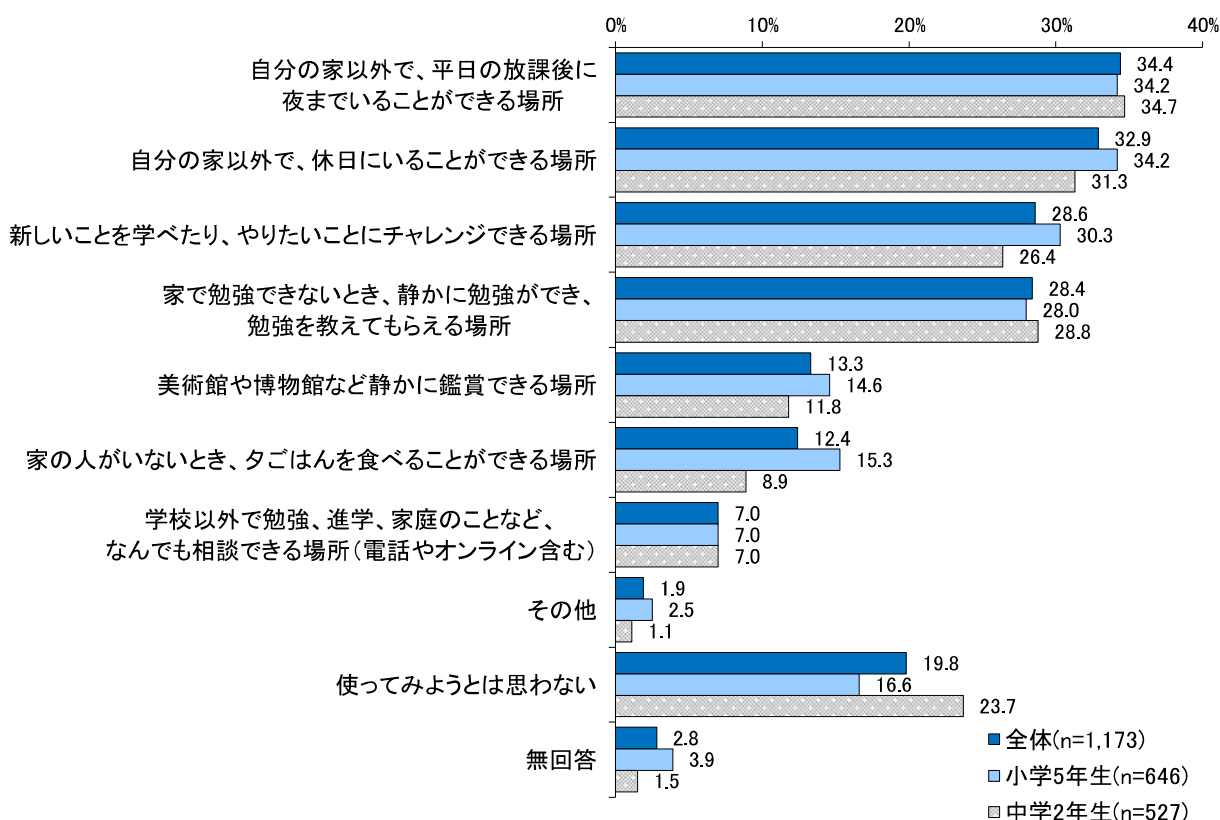
- 自分の考える「居場所」について、「落ち着いてくつろげる場所」、「好きなものがあったり、好きなことができる場所」が上位となっており、小学5年生では「自分ひとりで行けて、好きなだけいられる場所」、中学2年生では「周りに気をつかわず、自分のペースでいられる場所」が続いています。

【図表3-10 自分の考える「居場所」(生活実態調査)】



- 使ってみたい「居場所」について、「自分の家以外で、平日の放課後に夜までいることができる場所」、「自分の家以外で、休日にいることができる場所」が上位となっており、小学5年生では「新しいことを学べたり、やりたいことにチャレンジできる場所」、中学2年生では「家で勉強できないとき、静かに勉強ができ、勉強を教えてもらえる場所」が続いています。

【図表3-11 使ってみたい「居場所」(生活実態調査)】



《(ウ)大学生からの関連する意見聴取結果》

- 大学生のヒアリングを実施した結果、「総社市に若者向けのどんな場所があればよいと思いますか」という質問に、「スポーツや遊びなど体を思い切り動かせる場所」、次いで「友人と気軽におしゃべりできる場所」、次いで「一人で過ごせたり、何もせずにのんびりできる場所」、次いで「好きな事をして自由に過ごせる場所」が上位の回答として得られました。

《課題》

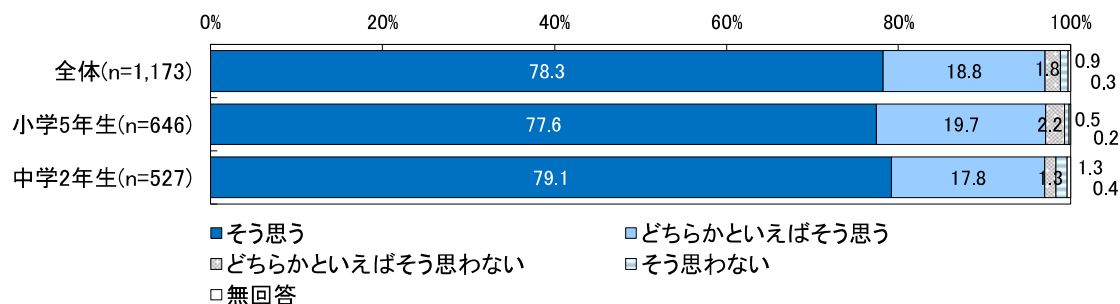
- すべてのこども・若者が、年齢を問わず、相互に人格と個性を尊重しながら、安全に安心して過ごせる多くの居場所をもつことができるよう、社会全体で支えていくことが必要です。

(4) こどもの権利について

《(ア)こどもの生活実態調査より》

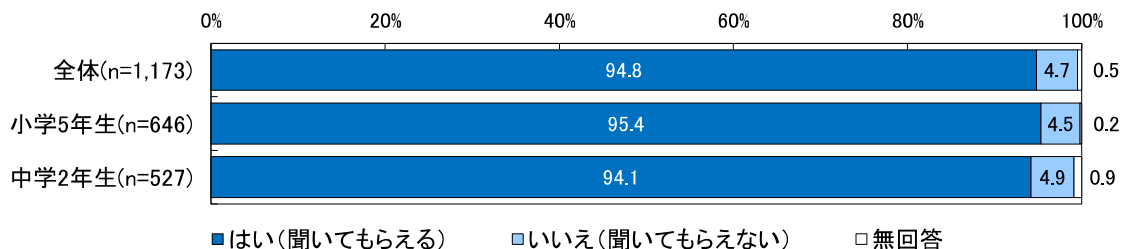
- 自分の命が守られ安心して暮らしていると思わない(「そう思わない」+「どちらかといえはそう思わない」)と回答した割合は小学5年生で2.7%, 中学2年生で2.6%となっています。

【図表3-12 自分の命が守られ安心して暮らしているかについての感じ方(生活実態調査)】



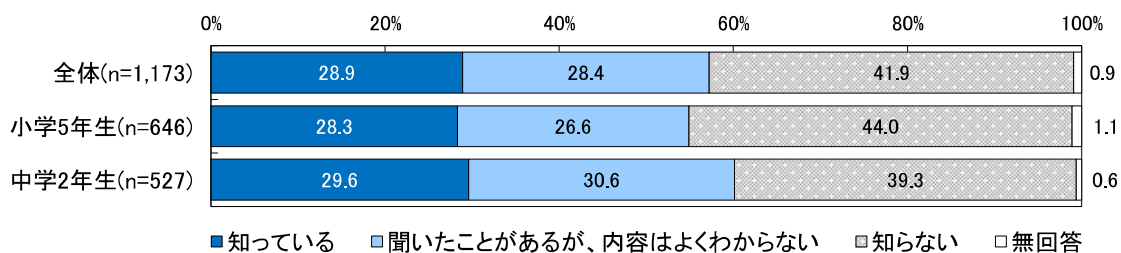
- 自分の意見を聞いてもらえると回答した割合は、小学5年生で95.4%, 中学2年生で94.1%であり、聞いてもらえないと回答した割合は小学5年生で4.5%, 中学2年生で4.9%となっています。

【図表3-13 自分の意見を聞いてもらえる状況(生活実態調査)】



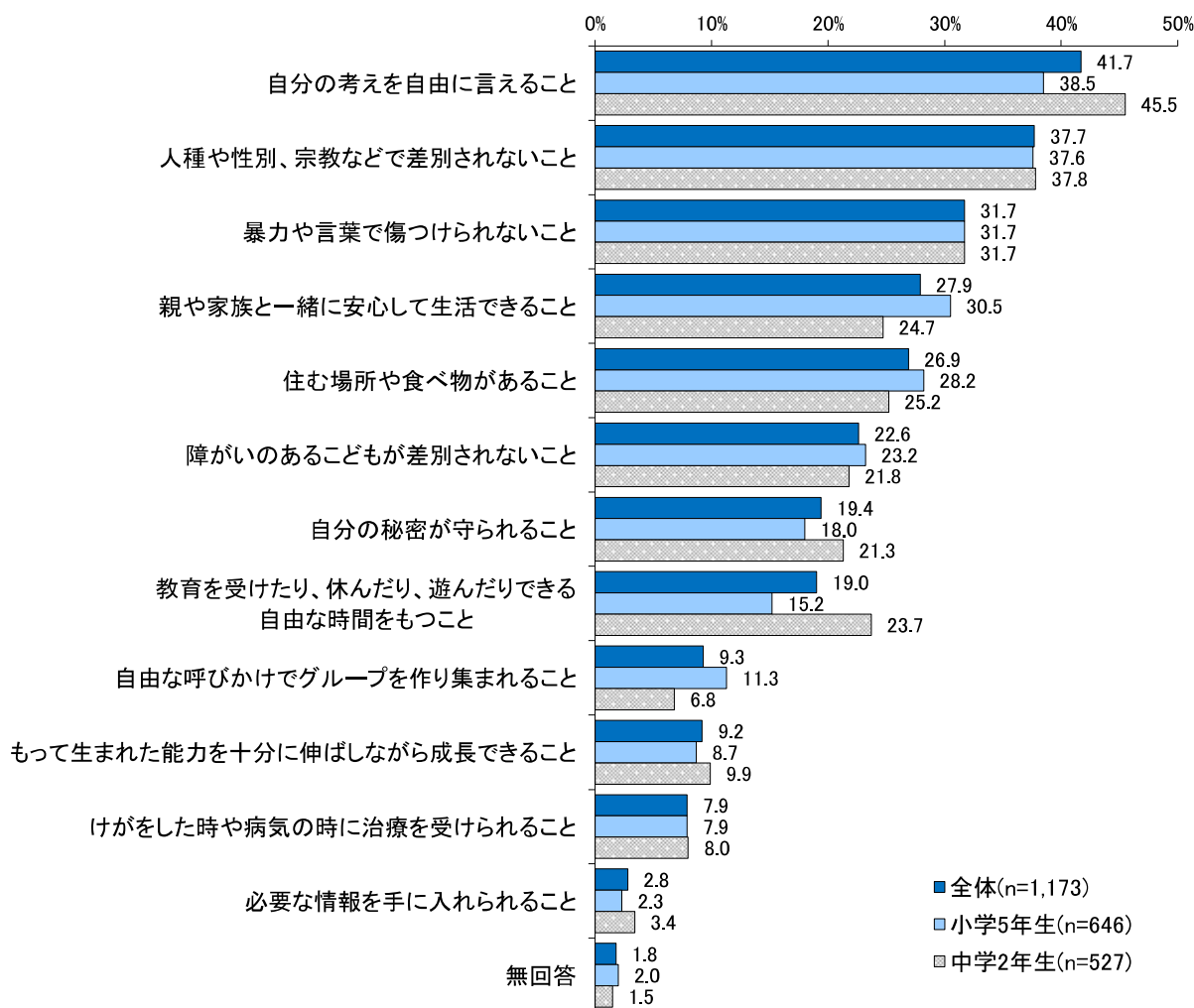
- すべてのこどもに「意見を表明する権利」があることを「知っている」と回答した割合は、小学5年生で28.3%, 中学2年生で29.6%となっています。

【図表3-14 すべてのこどもに「意見を表明する権利」があることの認知度(生活実態調査)】



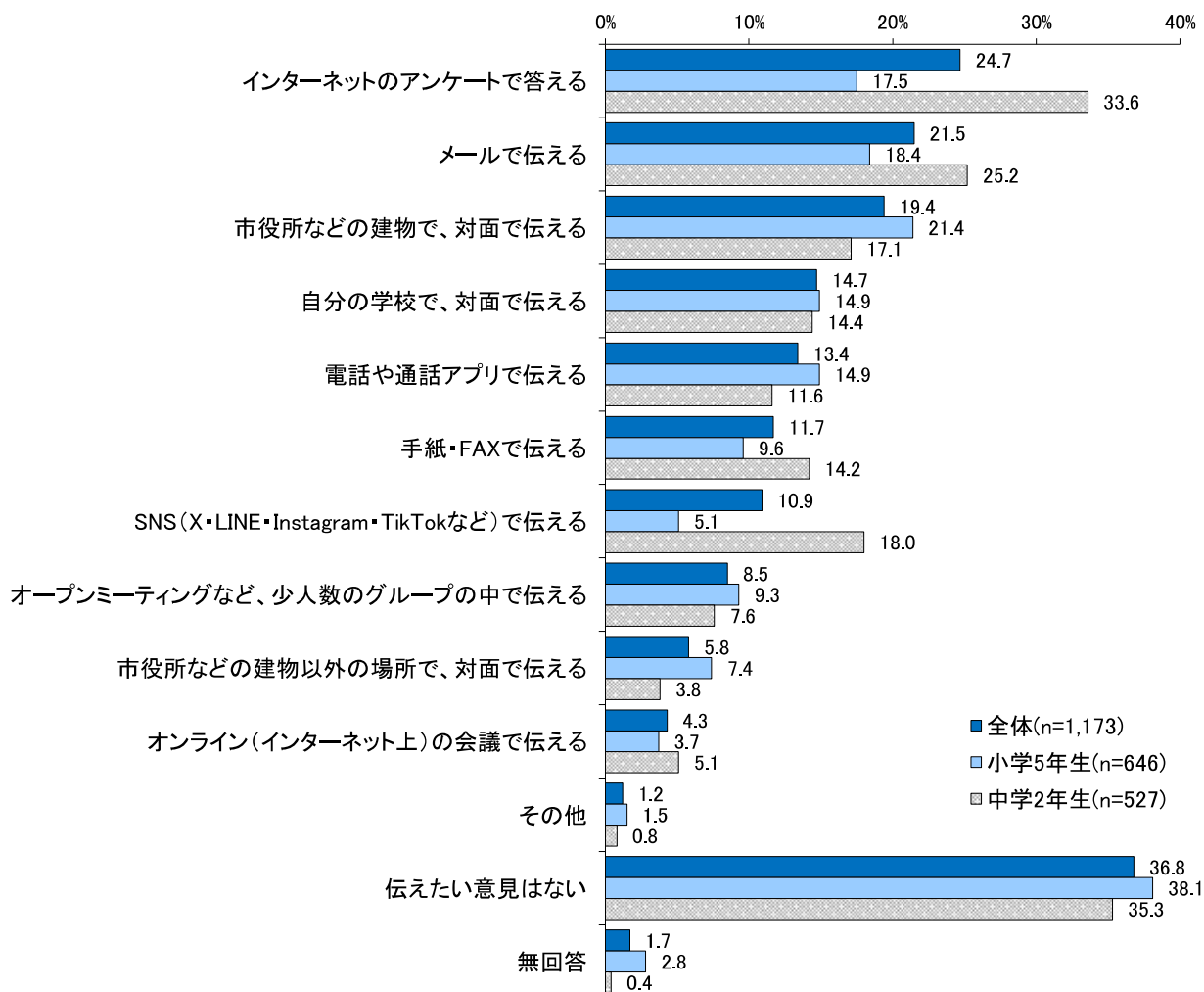
- 大切だと思うこどもの権利として、「自分の考えを自由に言えること」、「人種や性別、宗教などで差別されないこと」、「暴力や言葉で傷つけられないこと」が上位となっています。

【図表3-15 大切だと思うこどもの権利（生活実態調査）】



- 総社市に対して意見を伝えやすいと思う方法として、小学5年生では「市役所などの建物で、対面で伝える」、「メールで伝える」、「インターネットのアンケートで答える」、中学2年生では「インターネットのアンケートで答える」、「メールで伝える」、「SNS（X・LINE・Instagram・TikTokなど）で伝える」が上位となっています。

【図表3-16 総社市に対して意見を伝えやすいと思う方法（生活実態調査）】



《(ウ)大学生からの関連する意見聴取結果》

- 大学生のヒアリングを実施した結果、「こども政策に関して、若者の意見が反映されるには、どのようにしたら可能だと考えますか」という質問に、「一人ひとりが政策を考えることは難しいので、学校などで考える授業を取り入れてもらうとよいと思います。」、「若者はあまり積極的に自分の意見を言わない印象があるため、目安箱や自由に提案できる場をつくれればよいと思います。」、「SNSを通して、匿名で意見を送れるサイトをつくる。」、「アンケート活用。アンケートで多くの若者が挙げている意見から政策へ反映していく。」などの意見がありました。

《課題》

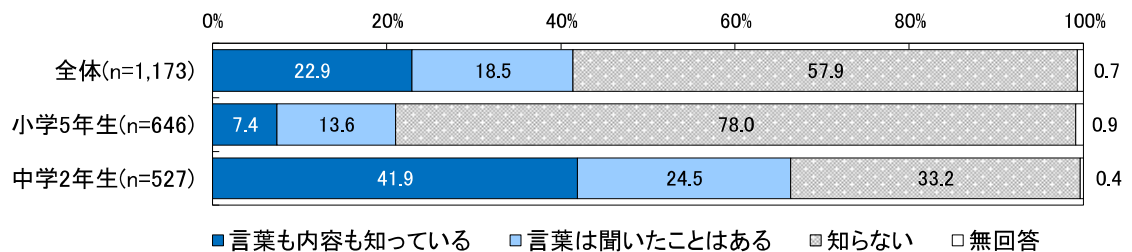
- こどもにとって意見表明の機会や場の在り方は、一人ひとり違うため、こども・若者目線で、あらゆる手法を検討し、広く意見が言える場や機会の確保が重要です。
- こどもの権利が守られるよう、すべてのこども・若者や市民、地域がこども基本法やこどもの権利条約等について理解を深めるための啓発を推進することが重要です。

(5) ヤングケアラーについて

《(ア)こどもの生活実態調査より》

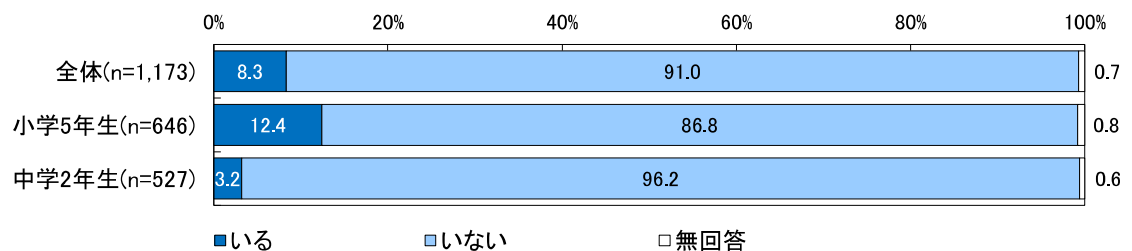
- ヤングケアラーという言葉の認知度について、「言葉も内容も知っている」と回答した割合は小学5年生で7.4％、中学2年生で41.9％となっています。

【図表3-17 ヤングケアラーという言葉の認知度（生活実態調査）】



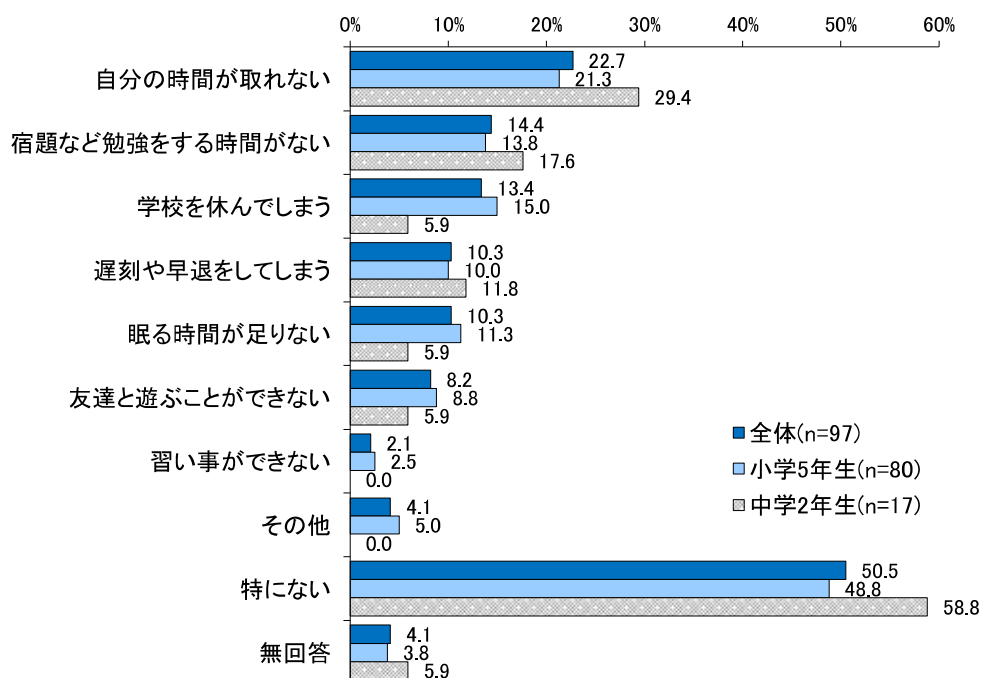
- 自分の勉強時間や遊ぶ時間を削って世話がが必要な家族が「いる」と回答した割合は小学5年生で12.4％、中学2年生で3.2％となっています。

【図表3-18 家族に世話がが必要な人の有無（生活実態調査）】



- 家族の世話をすることで、「自分の時間が取れない」、「宿題など勉強をする時間がない」等の回答が挙がっており、「特にない」を除くと、世話が必要な家族がいることものの4割以上が、世話をすることで何らかの影響がある状況となっています。

【図表3-19 家族の世話をすることで経験したこと（生活実態調査）】



《課題》

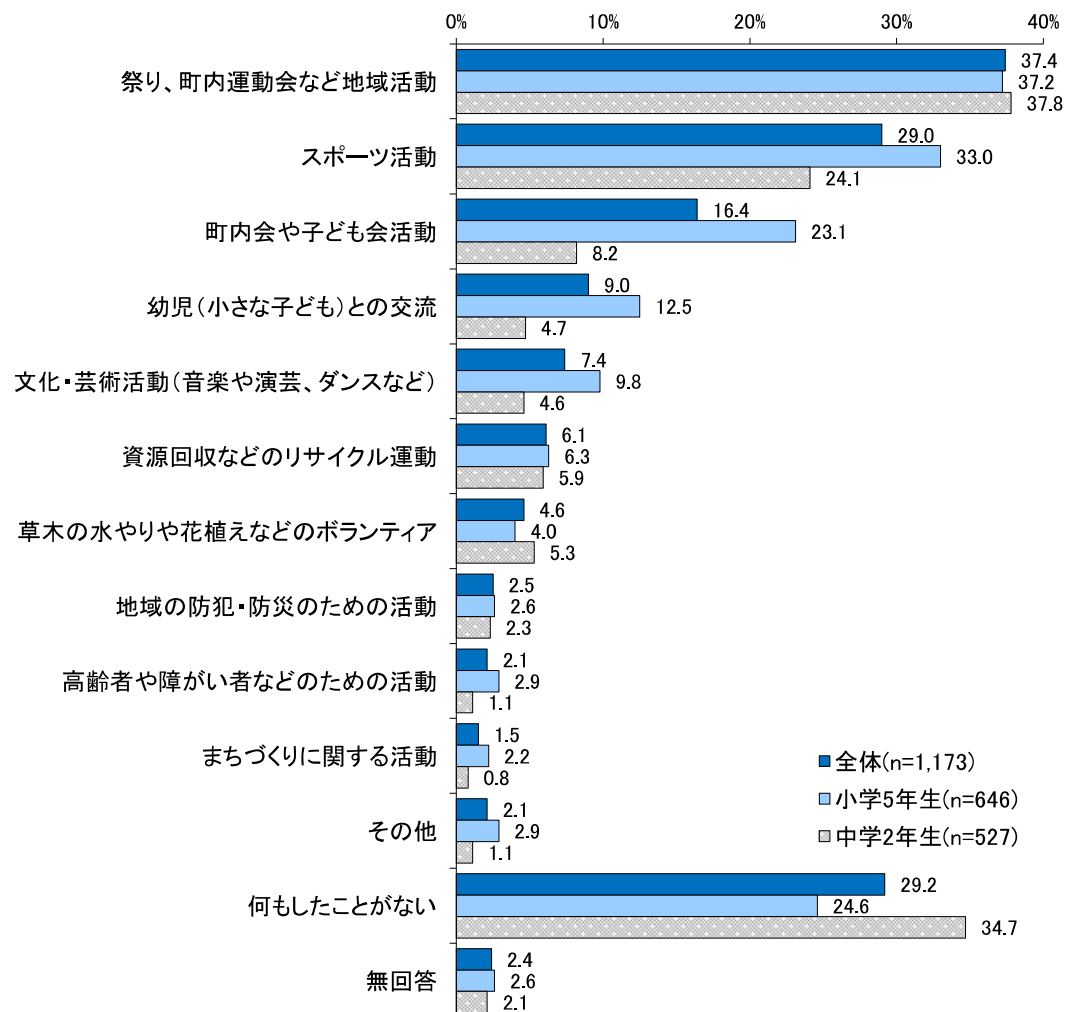
- ヤングケアラーを適切な支援につなげる体制やヤングケアラーに関して正しく理解するための啓発が重要です。

(6) 地域とのつながりについて

《(ア)こどもの生活実態調査より》

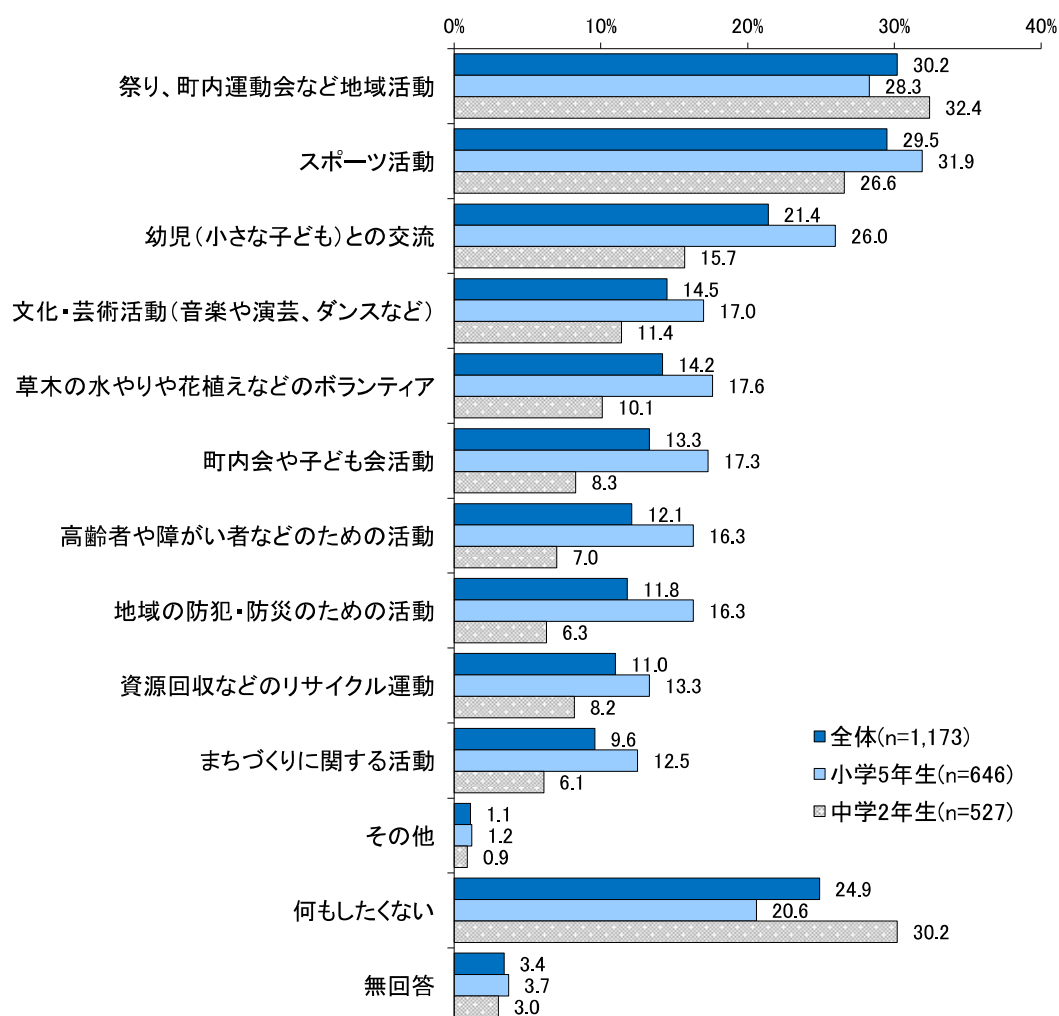
- 参加している（参加した）学校以外の活動について、「祭り、町内運動会など地域活動」と回答した割合が最も高く、「スポーツ活動」、「町内会や子ども会活動」が上位となっていますが、全体の約3割のこどもが活動に参加していない状況です。

【図表3-20 参加している（参加した）学校以外の活動（生活実態調査）】



- 今後、参加したいと思う学校以外の活動について、「祭り、町内運動会など地域活動」、「スポーツ活動」、「幼児（小さな子ども）との交流」が上位となっていますが、参加意向がない子どもが約25%います。

【図表3-21 今後、参加したいと思う学校以外の活動（生活実態調査）】



《課題》

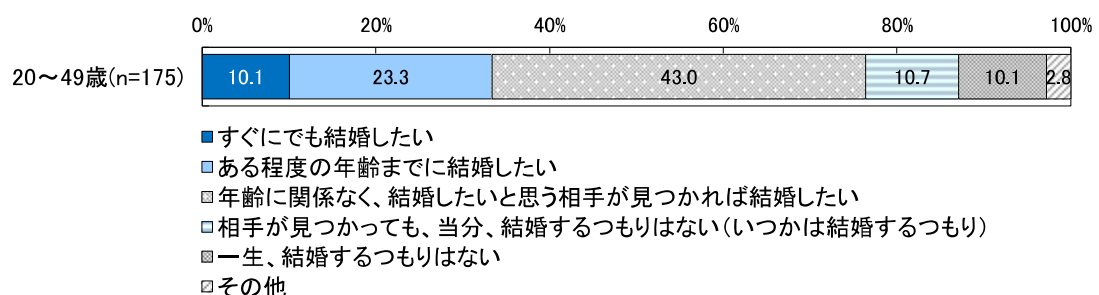
- 地域の人間関係が希薄化するなか、こども・若者が地域でさまざまな経験をし、活躍できる機会づくりが重要です。

(7) 結婚について（20～49歳・高校生）

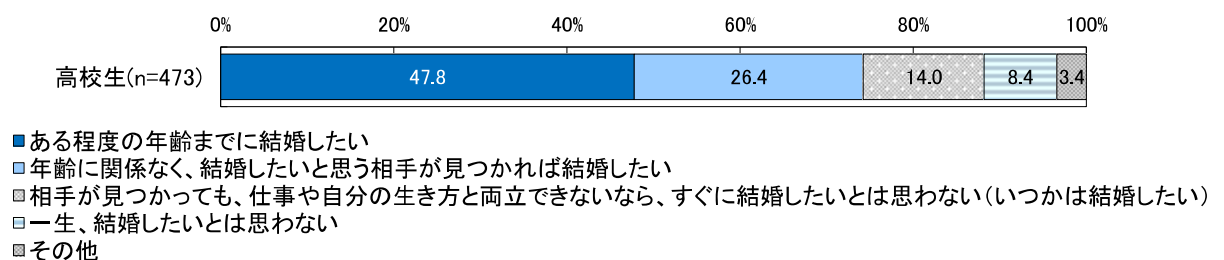
≪(イ)岡山県「結婚, 出産, 子育てに関する県民意識調査」より≫

- 結婚の希望について、20～49歳の未婚者では、「年齢に関係なく、結婚したいと思う相手が見つければ結婚したい」と回答した割合が43.0%、「ある程度の年齢までに結婚したい」と回答した割合が23.3%となっています。（図表3-22）
- 結婚の希望について、高校生では、「ある程度の年齢までに結婚したい」と回答した割合が47.8%、「年齢に関係なく、結婚したいと思う相手が見つければ結婚したい」と回答した割合が26.4%となっています。（図表3-23）

【図表3-22 結婚の希望（20～49歳・未婚者/結婚・出産・子育てに関する調査）】

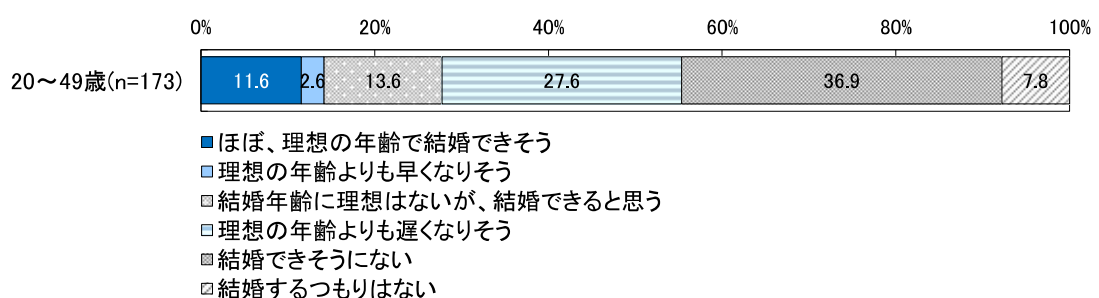


【図表3-23 結婚の希望（高校生/結婚・出産・子育てに関する調査）】

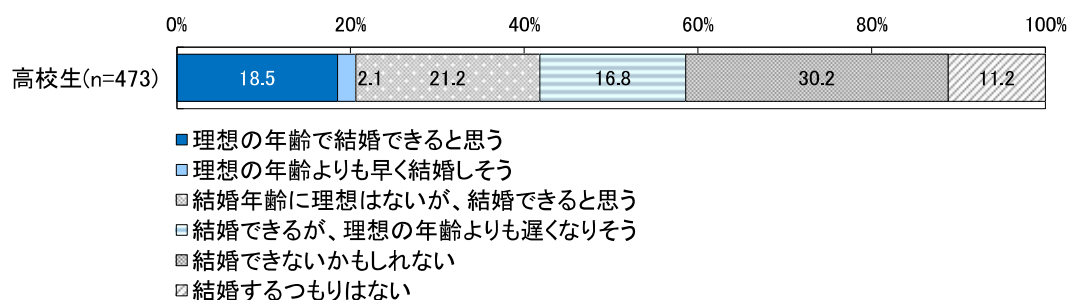


- 理想の結婚年齢に対する、自身の結婚の見通しについて、20～49歳の未婚者では、「結婚できそうにない」と回答した割合が36.9%、「理想の年齢よりも遅くなりそう」と回答した割合が27.6%となっています。（図表3-24）
- 高校生では、「結婚できないかもしれない」と回答した割合が30.2%、「結婚年齢に理想はないが、結婚できると思う」と回答した割合が21.2%となっています。（図表3-25）

【図表3-24 理想の結婚年齢に対する、自身の結婚の見通し（20～49歳・未婚者/結婚・出産・子育てに関する調査）】

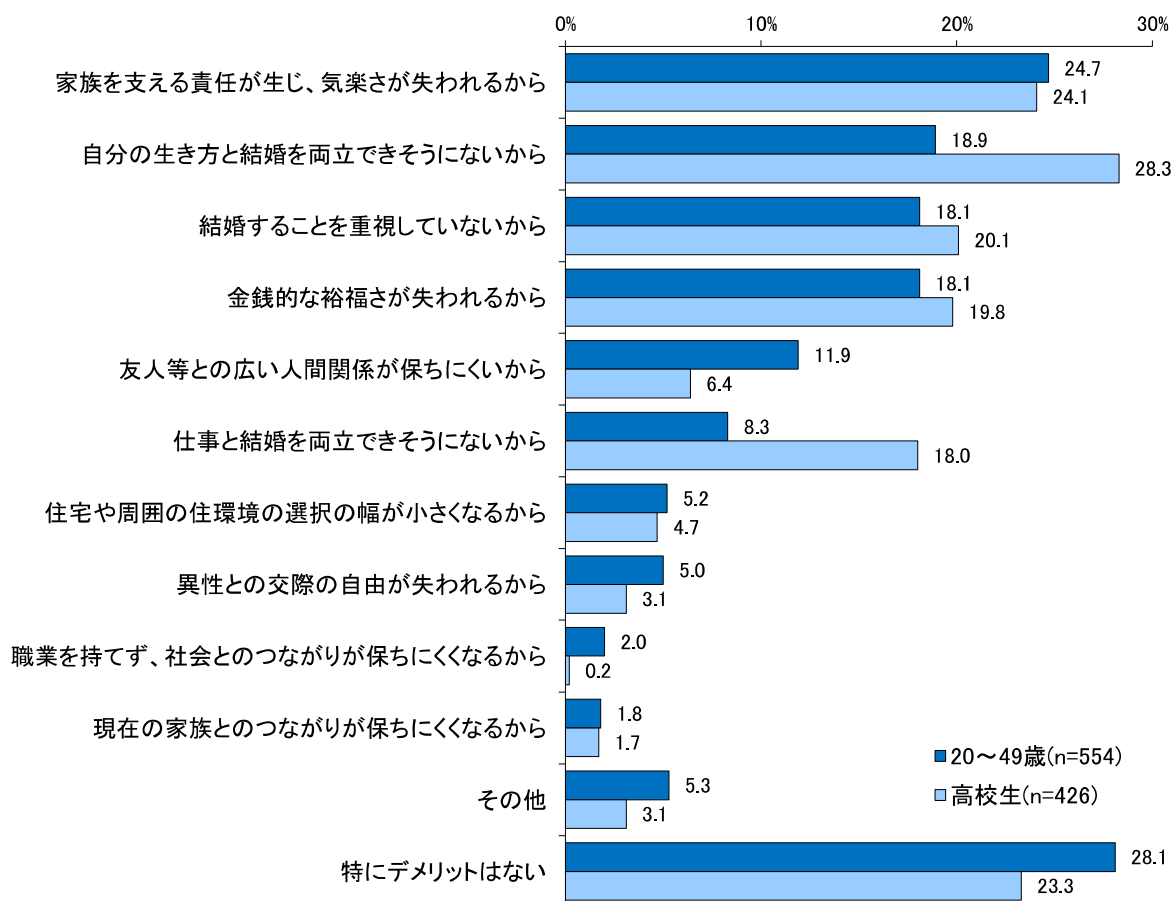


【図表3-25 理想の結婚年齢に対する、自身の結婚の見通し（高校生/結婚・出産・子育てに関する調査）】



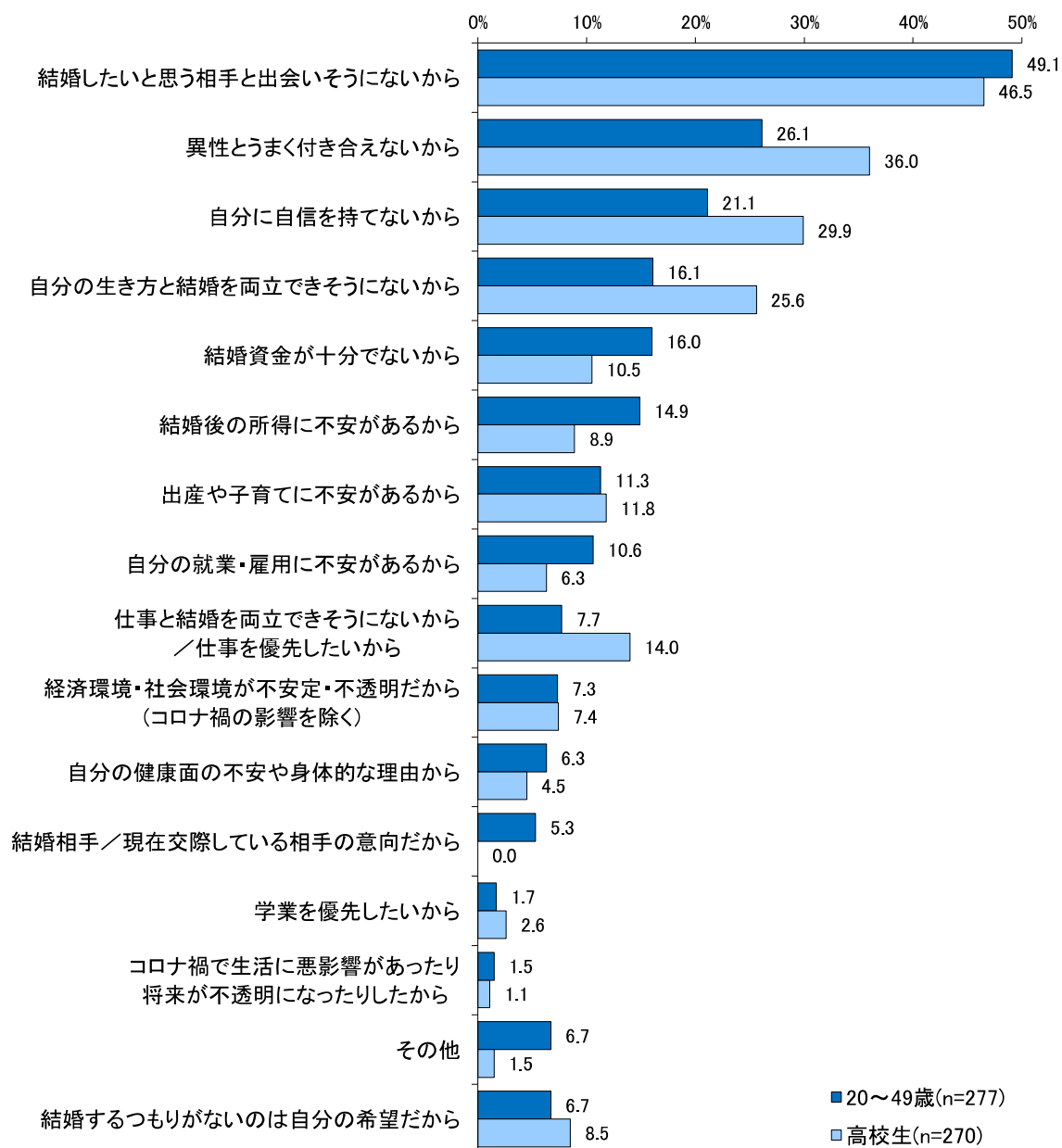
- 結婚するつもりはない理由について、20～49歳、高校生ともに「家族を支える責任が生じ、気楽さが失われるから」、「自分の生き方と結婚を両立できそうにないから」、「結婚することを重視していないから」、「金銭的な裕福さが失われるから」が上位となっています。

【図表3-26 結婚するつもりはない理由（20～49歳・高校生/結婚・出産・子育てに関する調査）】



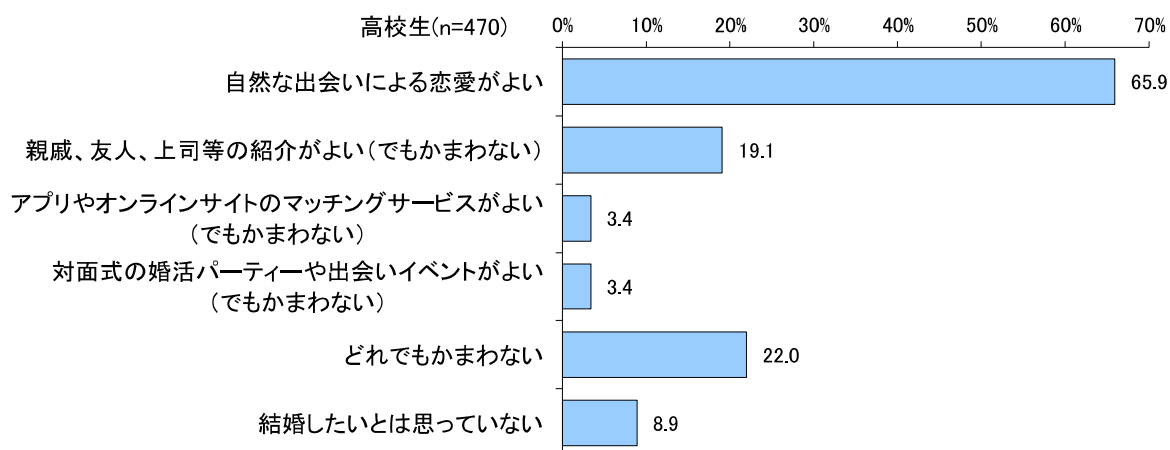
- 結婚が遅くなりそう・できそうにない・するつもりがない理由について、20～49歳、高校生ともに「結婚したいと思う相手と出会いそうにないから」が最も高く、4割を超えています。

【図表3-27 結婚が遅くなりそう・できそうにない・するつもりがない理由（20～49歳・高校生/結婚・出産・子育てに関する調査）】



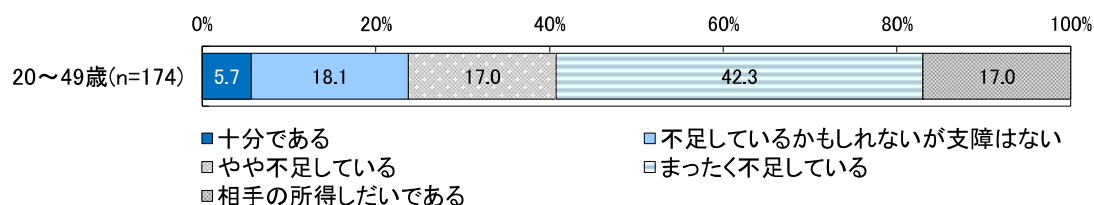
- 結婚につながるような男女の出会いの場の理想について、高校生では、「自然な出会いによる恋愛がよい」と回答した割合が65.9%と最も高くなっています。

【図表3-28 結婚につながるような男女の出会いの場の理想（高校生/結婚・出産・子育てに関する調査）】

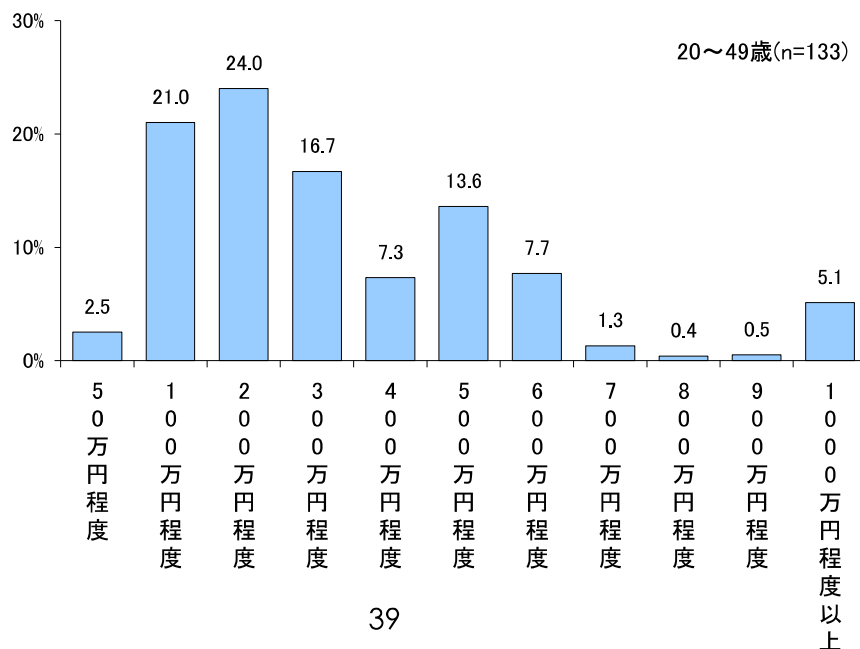


- 結婚生活を送るための現在の経済状況について、『不足している』(「まったく不足している」+「やや不足している」)と回答した割合が59.3%となっています。(図表3-29)
- 結婚生活(子育てを含む)に必要な年収の追加の金額について、「200万円程度」と回答した割合が24.0%と最も高くなっています。(図表3-30)

【図表3-29 現在の経済状況（20～49歳/結婚・出産・子育てに関する調査）】



【図表3-30 結婚生活(子育てを含む)に必要な年収の追加の金額（20～49歳/結婚・出産・子育てに関する調査）】



《課題》

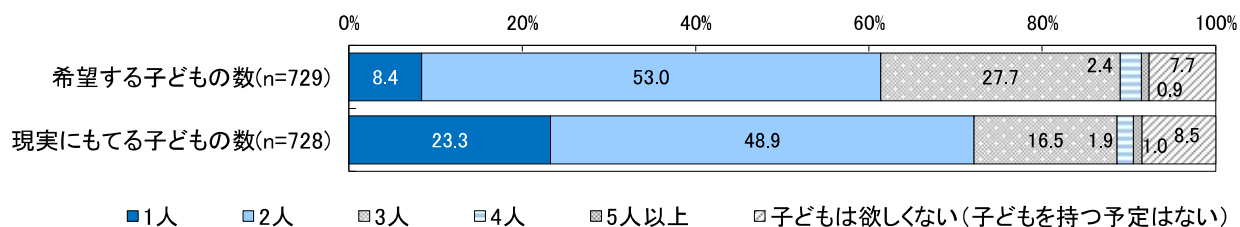
- 結婚について、「結婚したい」という意向がある人は20～49歳、高校生ともに7割を超えていますが、結婚の見通しについて「理想の年齢よりも遅くなりそう」、「結婚できそうにない」と回答した人が多くいる結果となっており、その理由として「結婚したいと思う相手と出会いそうにないから」との回答が4割を超えているため、地域の特性を生かした出会いの場の仕掛けづくりが重要です。
- 結婚生活を送るための現在の経済状況について、『不足している』と回答した人の割合が6割に近くなっていることから、若者の経済的自立を支援する取組が重要です。

(8) 子どもをもつことについて (20～49歳・高校生)

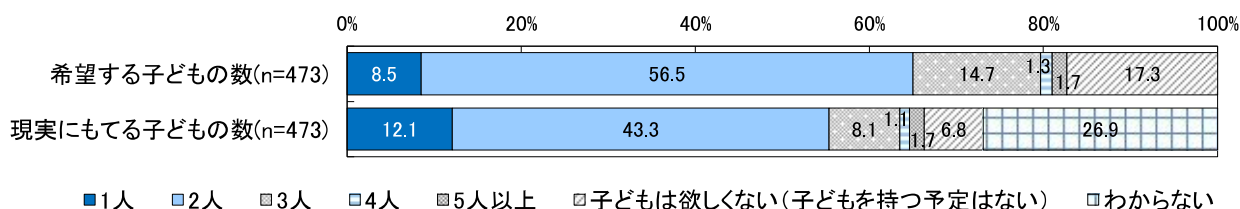
《(イ)岡山県「結婚, 出産, 子育てに関する県民意識調査」より》

- 20～49歳では、子どもの数について、「1人」の割合は現実では23.3%ですが、理想では8.4%、『3人以上』の割合が現実では19.4%、理想では31.0%となっており、理想よりも現実で少ない人数の割合が高くなっています。(図表3-31)
- 高校生では、理想の子どもの数について、「2人」の割合が56.5%、『3人以上』の割合が17.7%となっていますが、「子どもは欲しくない」と回答した割合が17.3%となっています。(図表3-32)

【図表3-31 希望する子どもの数と現実にもてる子どもの数 (20～49歳/結婚・出産・子育てに関する調査)】

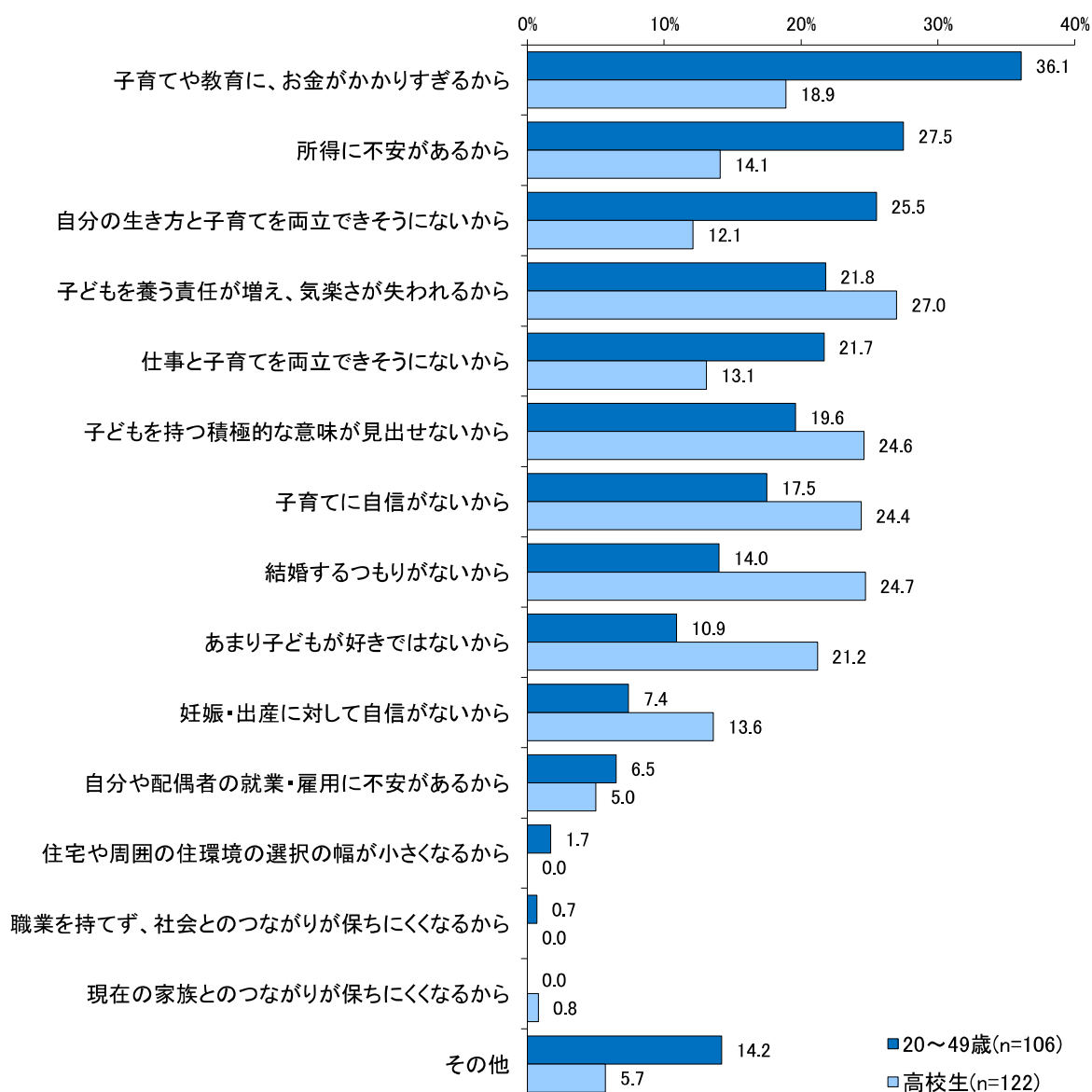


【図表3-32 希望する子どもの数と現実にもてる子どもの数 (高校生/結婚・出産・子育てに関する調査)】



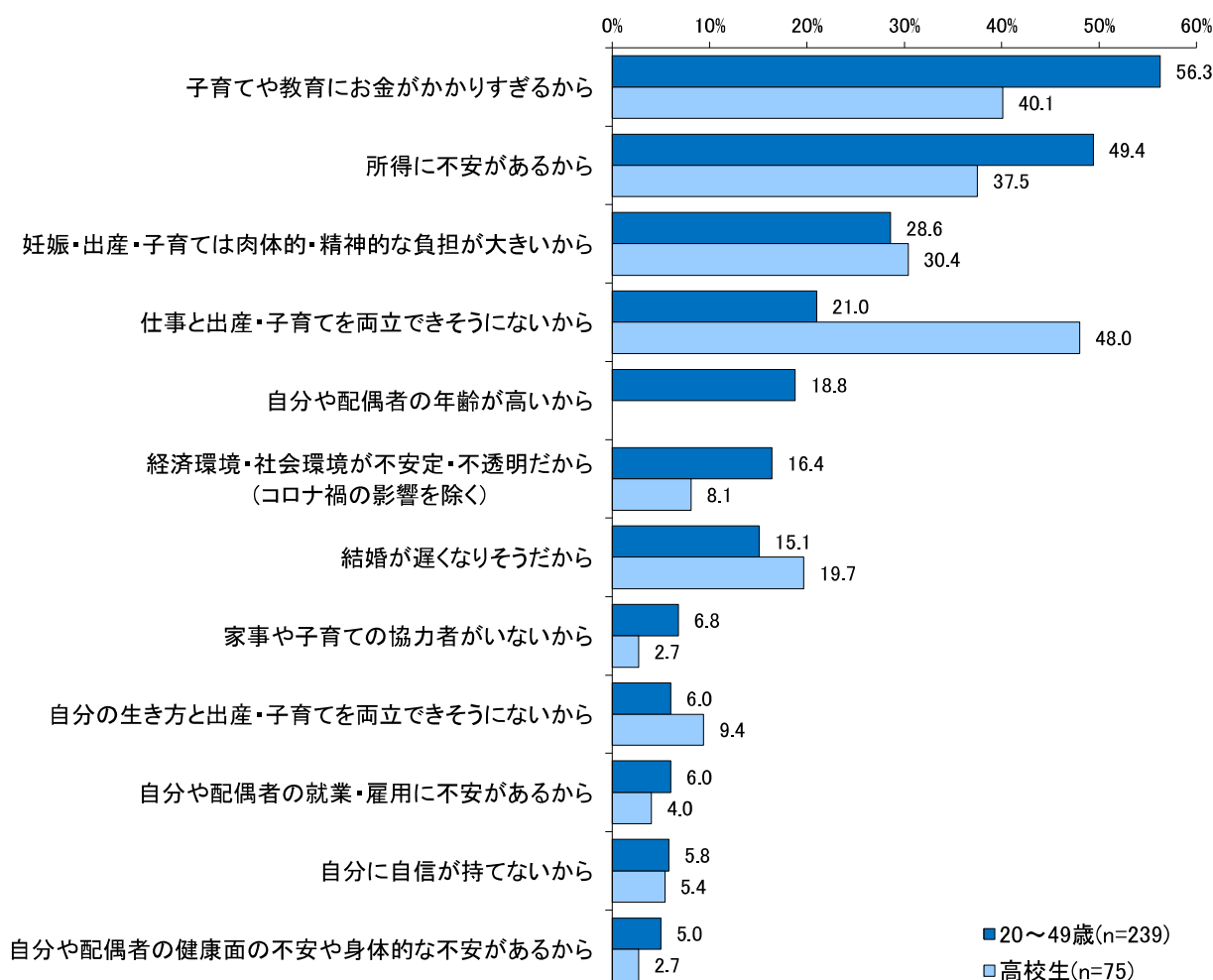
- 子どもは欲しくない、または希望する子どもの数が一人である理由について、20～49歳では、「子育てや教育に、お金がかかりすぎるから」、「所得に不安があるから」、「自分の生き方と子育てを両立できそうにないから」が上位となっています。
- 高校生では、「子どもを養う責任が増え、気楽さが失われるから」、「結婚するつもりがないから」、「子どもを持つ積極的な意味が見出せないから」、「子育てに自信がないから」が上位となっています。

【図表3-33 子どもは欲しくない、または希望する子どもの数が一人である理由（20～49歳・高校生/結婚・出産・子育てに関する調査）】



- 希望の子どもの数より少ない理由について、20～49歳では、「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」、「所得に不安があるから」が上位となっています。
- 高校生では、「仕事と出産・子育てを両立できそうにないから」が最も高く、「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」、「所得に不安があるから」が続いています。

【図表3-34 希望の子どもの数より少ない理由（20～49歳・高校生・上位12項目/結婚・出産・子育てに関する調査）】



《課題》

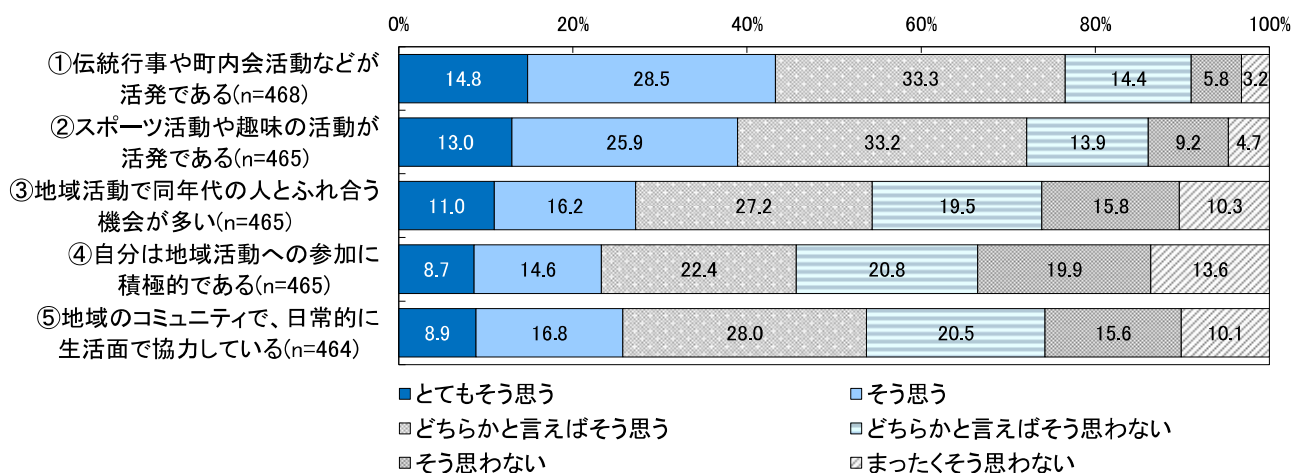
- 子どもをもつことについて、20～49歳では9割以上、高校生では8割以上が希望する子どもの人数を回答していますが、現実にもてる子どもの人数は希望の数よりも少なくなっており、その理由は「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」や「所得に不安があるから」という経済的な理由が上位であるため、今後も子育てや教育にかかる費用の負担を軽減するための取組が重要です。

(9) 地域社会や身近な人、地元のことについて（高校生）

《(イ)岡山県「結婚、出産、子育てに関する県民意識調査」より》

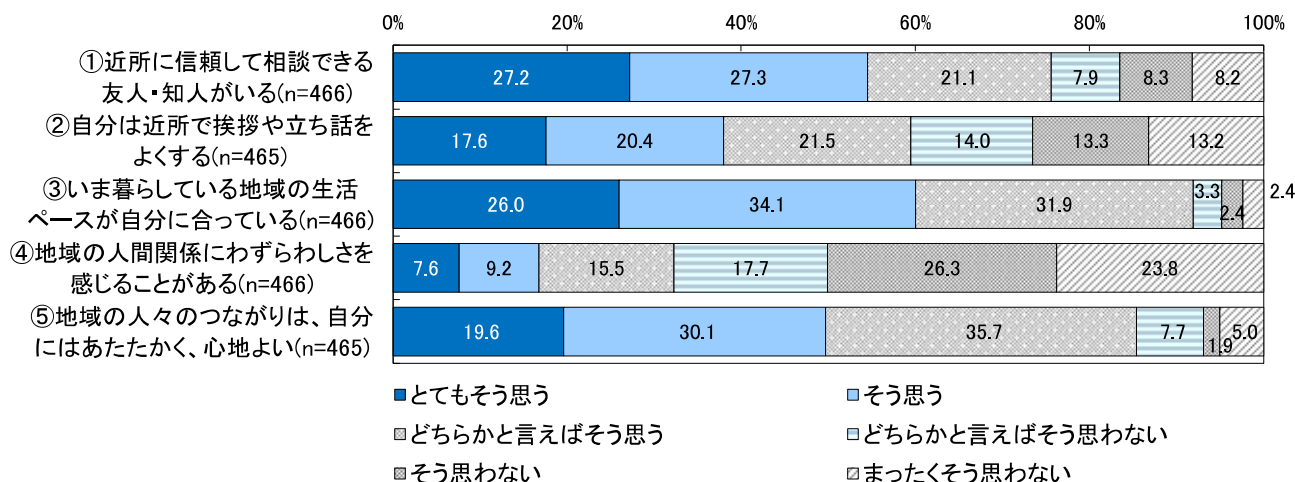
- 高校生の地域との関わり状況等について、『思う』（「とても思う」＋「思う」＋「どちらかと言えば思う」）と回答した割合は、「①伝統行事や町内会活動などが活発である」、「②スポーツ活動や趣味の活動が活発である」で7割台、「③地域活動で同年代の人とふれ合う機会が多い」、「⑤地域のコミュニティで、日常的に生活面で協力している」で5割台となっています。
- 「④自分は地域活動への参加に積極的である」で『思わない』（「まったく思わない」＋「そう思わない」＋「どちらかと言えば思わない」）と回答した割合は、5割台となっています。

【図表3-35 地域との関わりについて（高校生/結婚・出産・子育てに関する調査）】



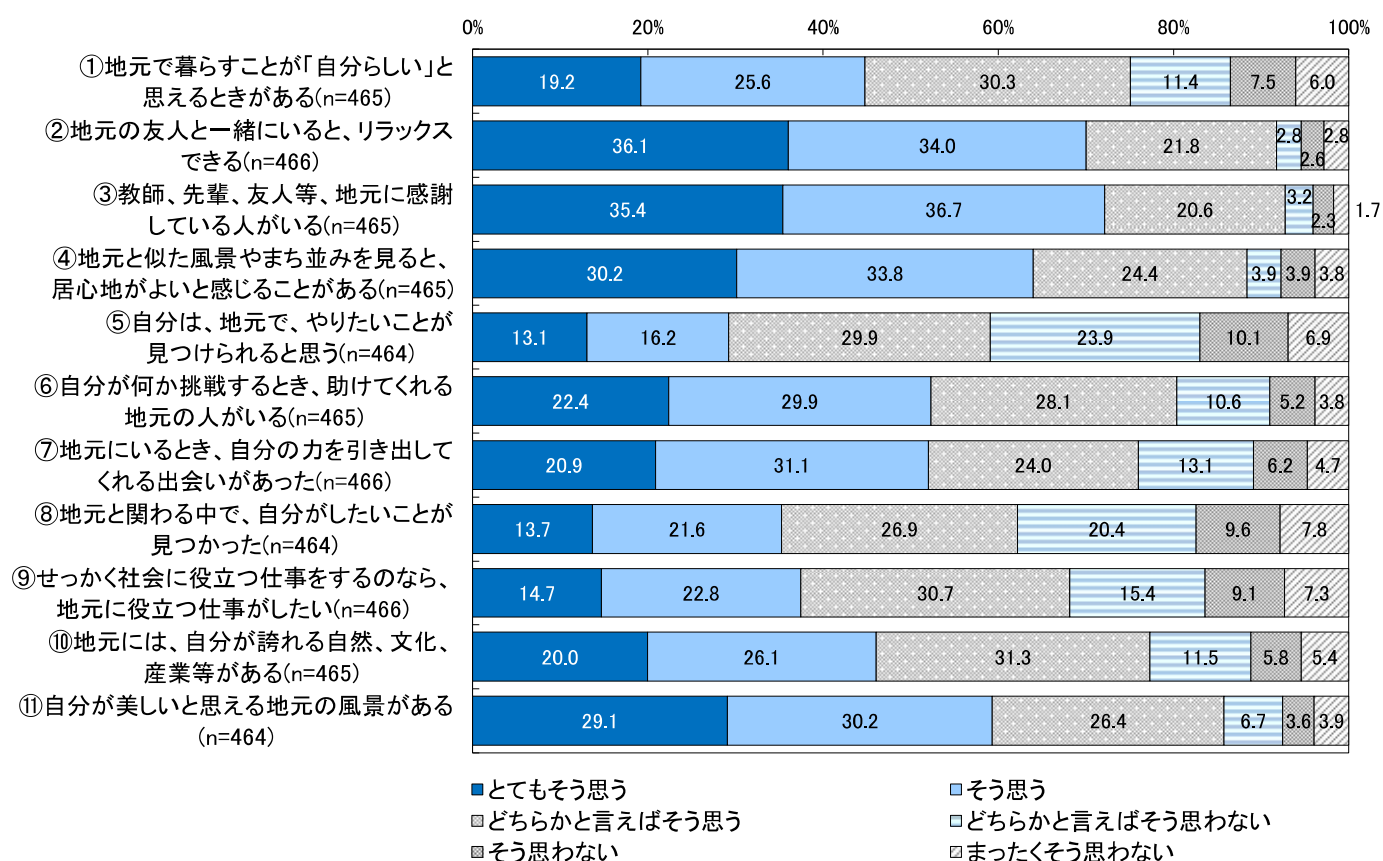
- 地域の暮らしやすさについて、『思う』（「とても思う」＋「思う」＋「どちらかと言えば思う」）と回答した割合は、「①近所に信頼して相談できる友人・知人がいる」、「③いま暮らしている地域の生活ペースが自分に合っている」、「⑤地域の人々のつながりは、自分にはあたたかく、心地よい」で7～9割台となっています。

【図表3-36 地域の暮らしやすさについて（高校生/結婚・出産・子育てに関する調査）】



- 自分自身と地元との間の関係について、『思う』（「とても思う」＋「そう思う」＋「どちらかと言えばそう思う」）と回答した割合は、「②地元の友人と一緒にいると、リラックスできる」、「③教師、先輩、友人等、地元感謝している人がある」、「④地元と似た風景やまち並みを見ると、居心地がよいと感じることがある」、「⑥自分が何か挑戦するとき、助けてくれる地元の人がある」、「⑩自分が美しいと思える地元の風景がある」で8～9割台となっていますが、「⑤自分は、地元で、やりたいことが見つけれられると思う」では59.2%となっています。

【図表3-37 自分自身と地元との間の関係（高校生・結婚・出産・子育てに関する調査）】



《課題》

- 高校生では、地域の活動が活発であることや地域の人へのあたたかさ、地域の生活のペースを評価する割合が高くなっていますが、自分自身の活動への参加や地元でやりたいことを見つけれられるかについては他の項目よりも低い結果となっているため、若い世代が地域の活動に参加できる仕組みや多様な経験ができる機会づくりが重要です。

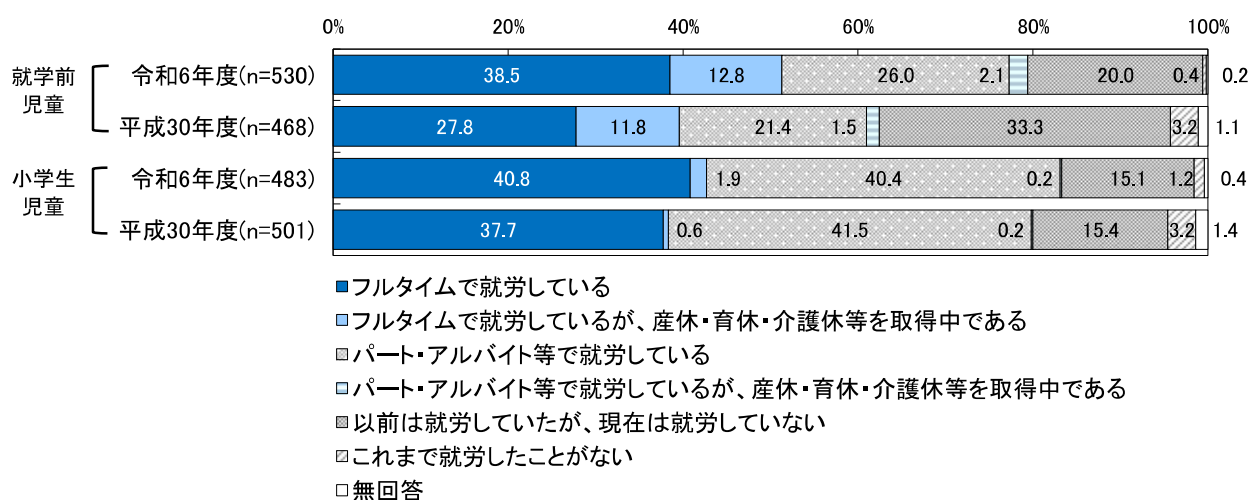
3 保護者の意見を聴くアンケート調査の結果

(1) 保護者の就労状況

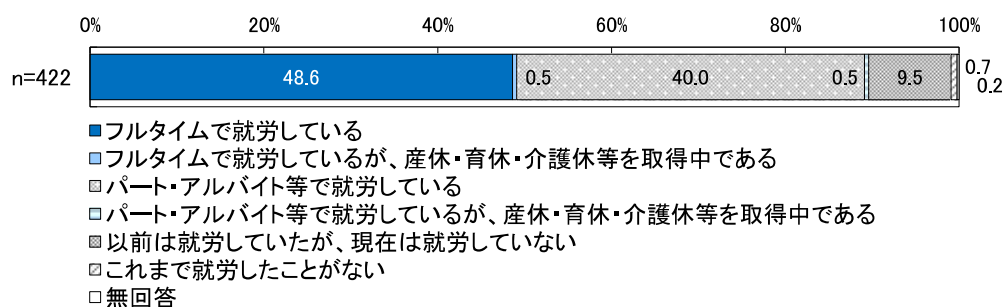
《アンケート結果》

- 就労している母親は，就学前児童で79.4%，小学生で83.3%であり，前回調査と比較すると，就学前児童で大きく上昇しています。（図表3-38）
- 中学生では，就労している母親は89.6%となっています。（図表3-39）

【図表3-38 母親の就労状況（前回調査結果との比較/ニーズ調査）】

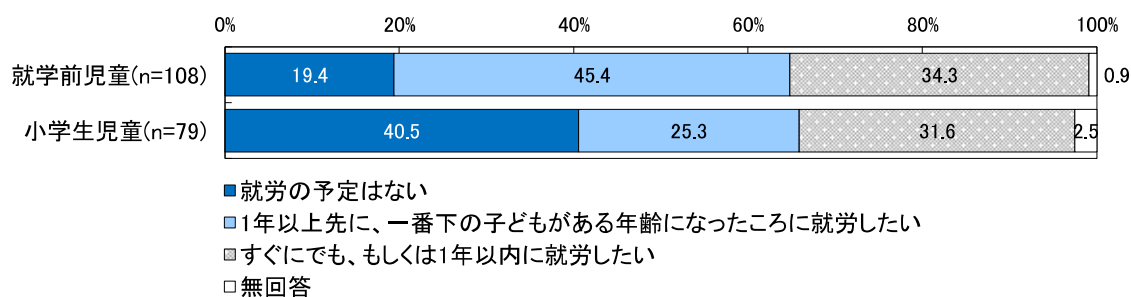


【図表3-39 母親の就労状況（中学生/ニーズ調査）】



- 就労していない母親のうち、「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」と回答した割合が3割を超えています。

【図表3-40 母親の就労希望（現在就労していないと回答した人/ニーズ調査）】

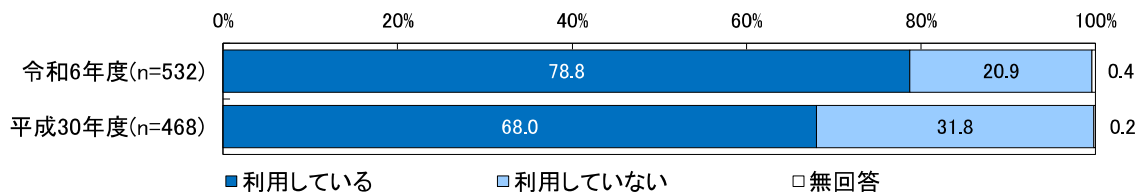


(2) 教育・保育の利用状況

《アンケート結果》

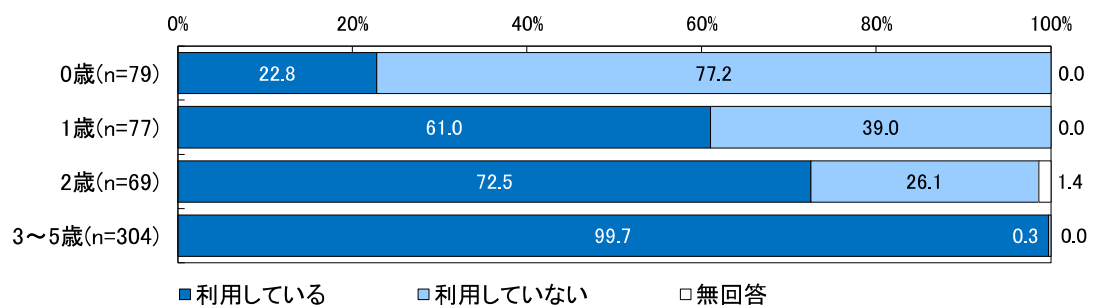
- 教育・保育事業を利用している割合は78.8%であり，前回調査と比較すると10.8ポイント上昇しています。

【図表3-41 教育・保育事業の利用状況（就学前児童・前回調査結果との比較/ニーズ調査）】



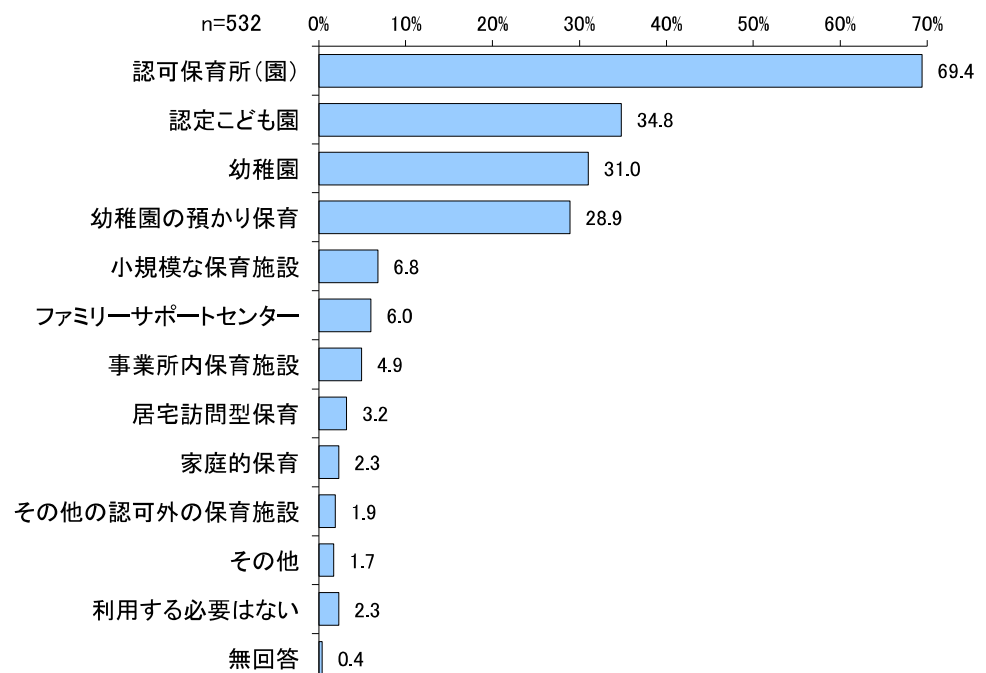
- 低い年齢の児童においても，教育・保育事業を利用している割合が高くなっています。

【図表3-42 教育・保育事業の利用状況（就学前児童・年齢別/ニーズ調査）】



- 今後，利用を希望する教育・保育事業について，「認可保育所（園）」が約7割，「認定こども園」，「幼稚園」がともに3割台となっています。

【図表3-43 利用を希望する教育・保育事業（就学前児童/ニーズ調査）】



《課題》

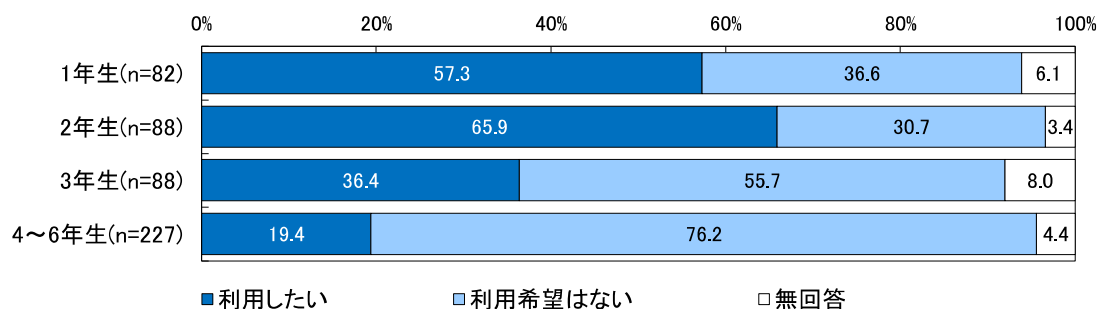
- 母親の就労している割合やフルタイムの割合は上昇しており、今後も共働きの世帯が増加することが考えられます。
- 年齢の低い児童の保育ニーズが高くなっていることから、年齢に対応した地域等の教育・保育事業の潜在的なニーズを踏まえた提供量を検討する必要があります。

(3) 放課後児童クラブについて

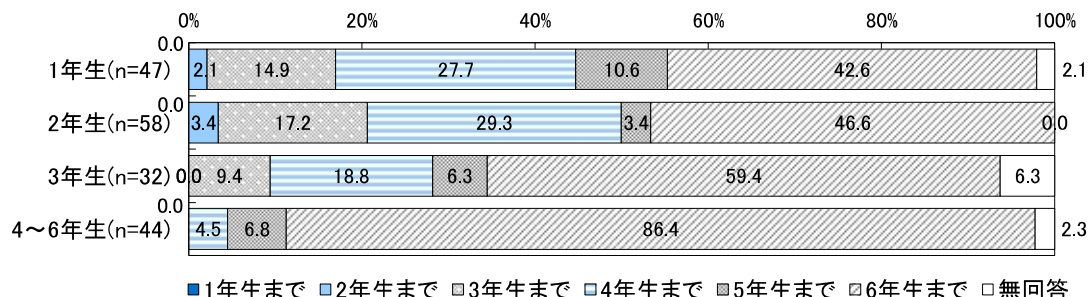
《アンケート結果》

- 放課後児童クラブの利用を希望する割合は1年生で57.3%，2年生で65.9%となっており、高学年においても約2割となっています。（図表3-44）
- 「6年生まで」利用したいと回答した割合が高くなっています。（図表3-45）

【図表3-44 放課後児童クラブの利用希望（小学生児童・学年別/ニーズ調査）】



【図表3-45 放課後児童クラブの利用希望終了学年（利用したい人、小学生児童・学年別/ニーズ調査）】



《課題》

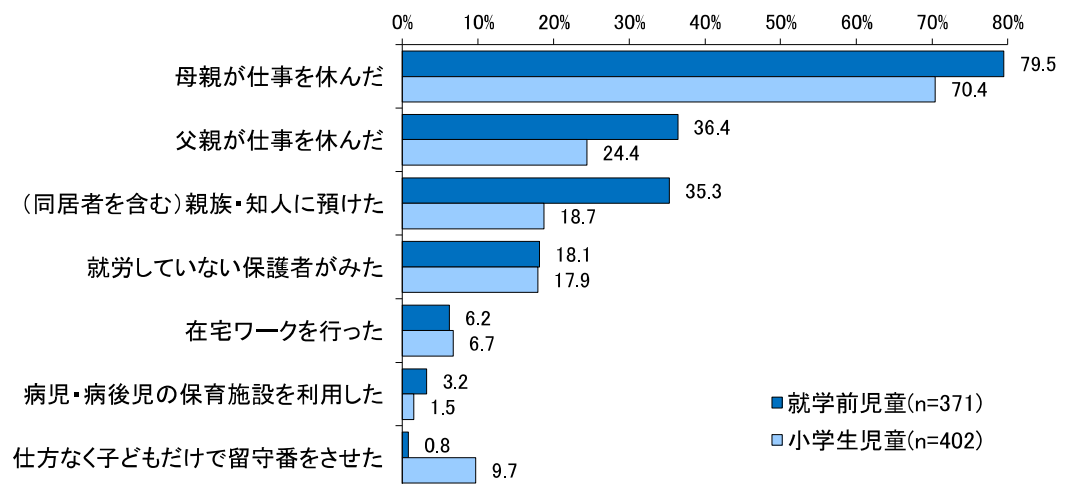
- 放課後児童クラブについてのニーズは高く、高学年までの利用希望も高いため、地域等のニーズを踏まえた提供量を確保することが重要です。

(4) 地域子育て支援事業の利用状況・利用希望

「アンケート結果」

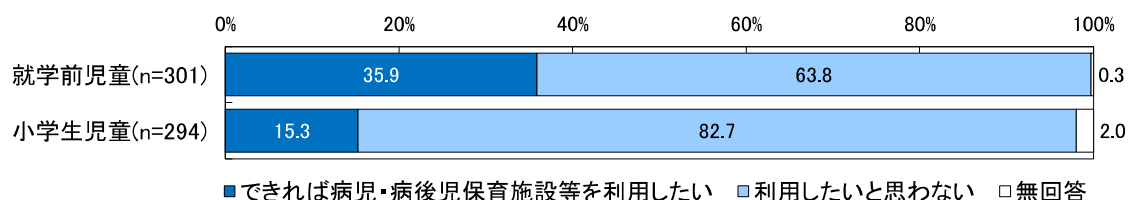
- 病気等により幼稚園・保育所（園），学校を休んだ際に，「病児・病後児の保育施設を利用した」と回答した割合は就学前児童で3.2%，小学生児童で1.5%と低くなっています。

【図表3-46 病気等により幼稚園・保育所（園），学校を休んだ際の対応方法（上位7項目/ニーズ調査）】



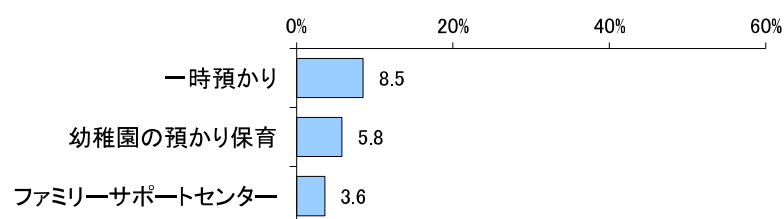
- 父親，母親が仕事を休んだ家庭のうち，病児・病後児保育施設の利用希望がある割合は就学前児童で35.9%，小学生児童で15.3%となっています。

【図表3-47 病児・病後児保育施設等の利用希望（ニーズ調査）】



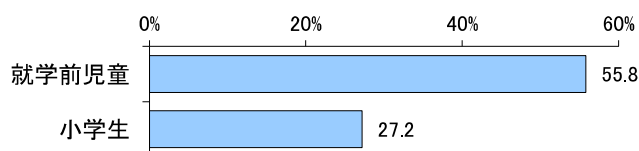
- 就学前児童の一時的な保育の利用状況について，「一時預かり」は8.5%，「幼稚園の預かり保育」は5.8%，「ファミリーサポートセンター」が3.6%となっています。

【図表3-48 一時的な保育の利用状況（就学前児童/ニーズ調査）】



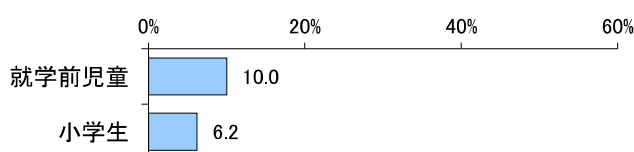
- 私用、保護者の通院、不定期の就労等の目的で、こどもを預ける事業の利用意向がある割合は、就学前児童で55.8%、小学生で27.2%となっています。

【図表3-49 一時的な保育の利用意向（ニーズ調査）】



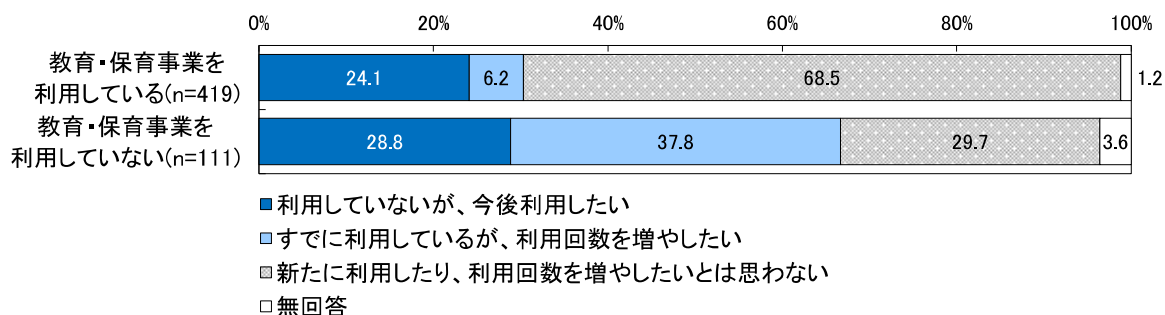
- ショートステイの利用意向がある割合は、就学前児童で10.0%、小学生で6.2%となっています。

【図表3-50 ショートステイの利用意向（ニーズ調査）】



- 教育・保育事業を利用していない家庭では、地域子育て支援拠点事業の利用意向がある保護者が6割を超えています。

【図表3-51 地域子育て支援拠点事業等の利用希望（就学前児童・教育・保育事業の利用状況別/ニーズ調査）】



《課題》

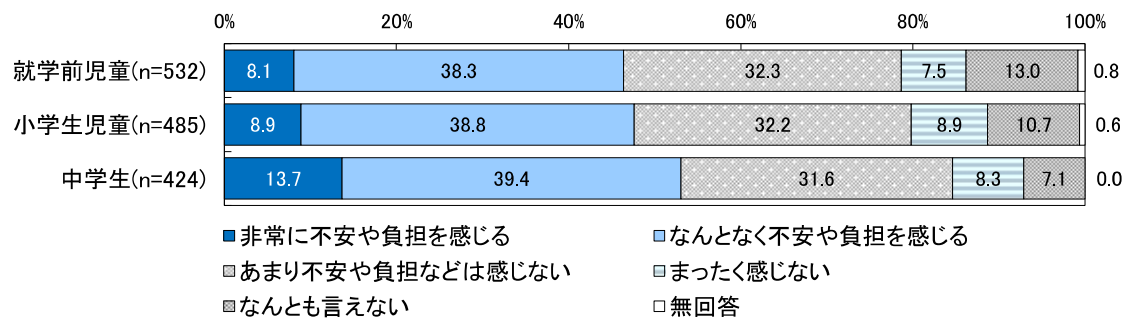
- 病児・病後児保育、一時預かり等の多様な保育のニーズが高くなっているため、提供体制の充実を図るとともに、事業の周知、利用しやすい環境づくりが重要です。
- 子育てに不安を感じたり、子育てを支援してくれる人がいない子育て家庭を身近な相談の場であるつどいの広場、地域子育て支援拠点につなぐ体制が重要です。

（５）子育てに関する悩みや不安

＜アンケート結果＞

- 子育てに関して、『不安や負担を感じる』（「非常に不安や負担を感じる」＋「なんとなく不安や負担を感じる」）と回答した割合は４割以上となっています。

【図表3-52 子育てに関する不安や負担の程度（ニーズ調査）】

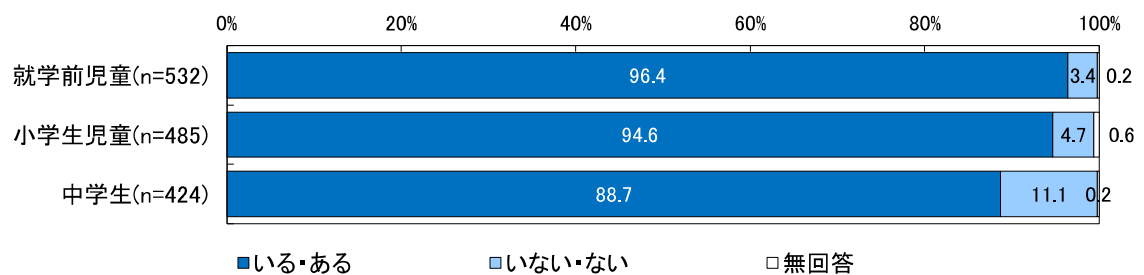


（６）相談の状況

＜アンケート結果＞

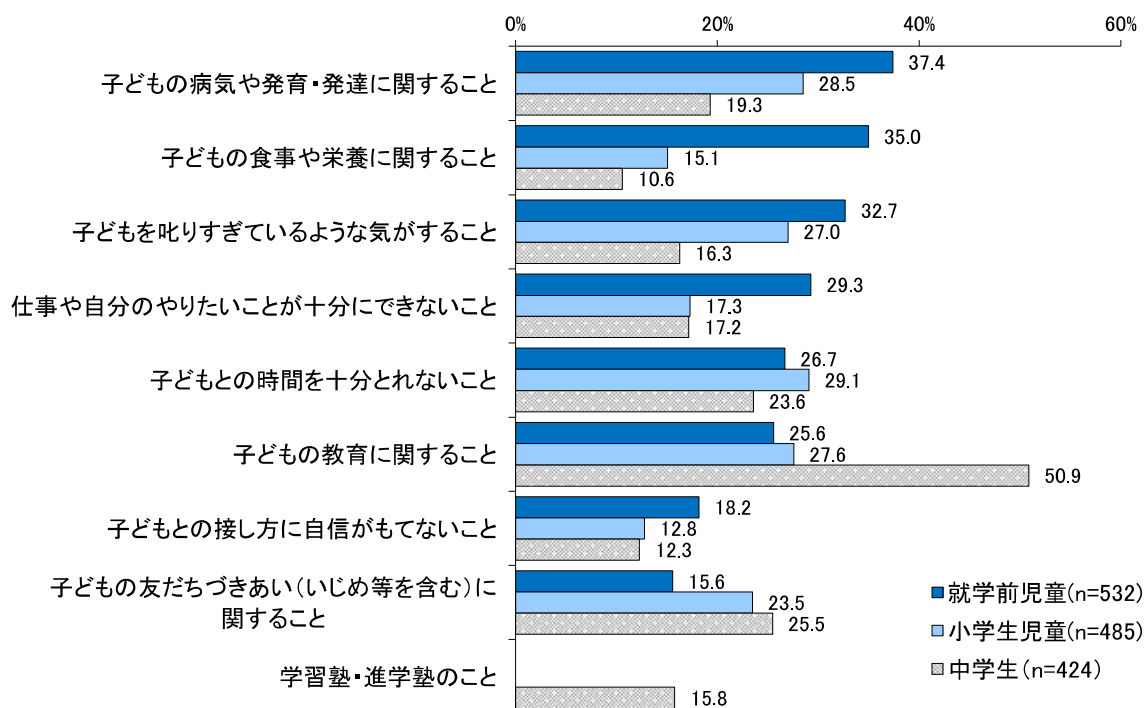
- 子育てに関する相談先が「いない・ない」と回答した割合は就学前児童で3.4％，小学生児童で4.7％，中学生で11.1％となっています。

【図表3-53 子育てに関する相談先の有無（ニーズ調査）】



- 子育てに関して困っていることや悩んでいることとして、就学前児童、小学生児童では「子どもの病気や発育・発達に関すること」、中学生では「子どもの教育に関すること」と回答した割合が最も高くなっています。

【図表3-54 子育てに関して困っていること・悩んでいること（上位9項目/ニーズ調査）】



《課題》

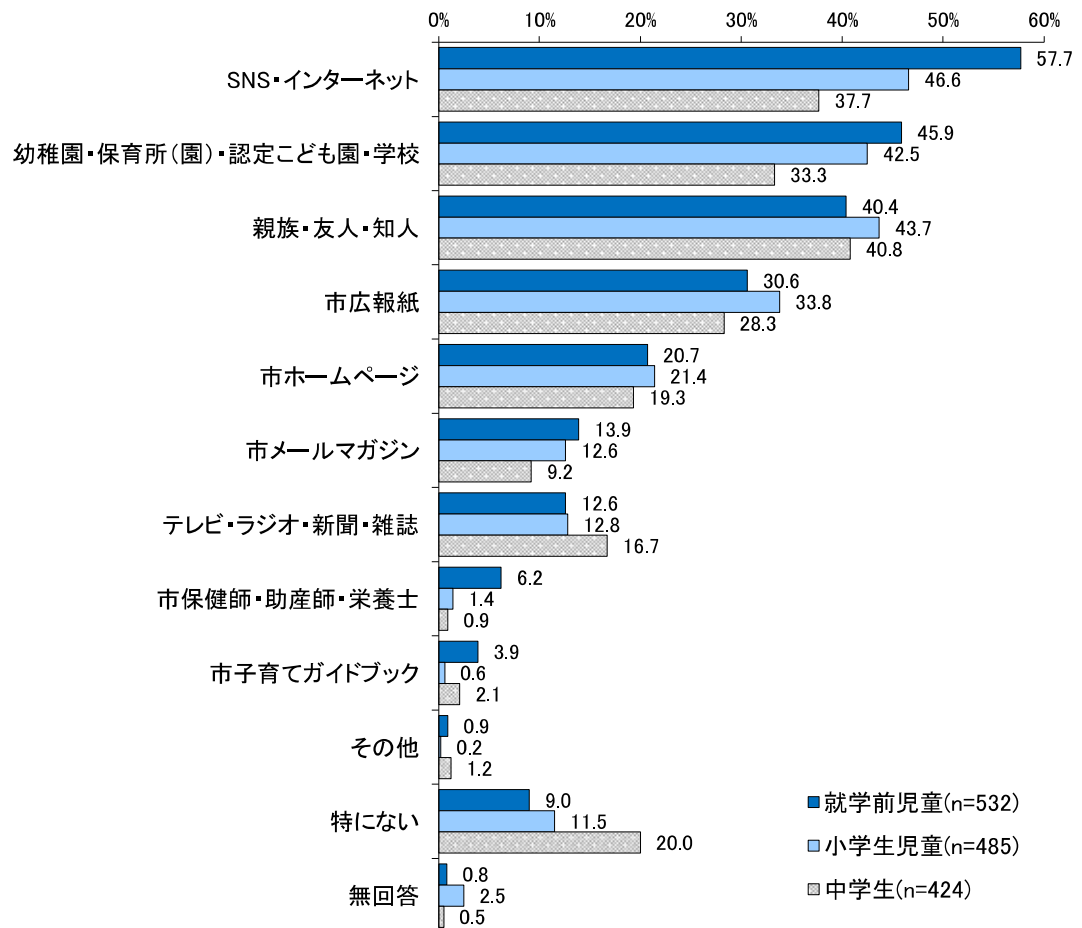
- 子育てに関する不安や負担を感じている家庭、相談相手がいない家庭があることから、身近な相談の場であるつどいの広場、地域子育て支援センターや市の保健師等の相談・支援機関につなぐ体制とともに、利用しやすい相談体制や利用のきっかけづくりを推進することが重要です。
- 子育てに関して困っていることや悩んでいることとして、「子どもの病気や発育・発達に関すること」が上位となっていることから、出産前から、子育て期、こどもから若者まで、切れ目のない保健・医療を受けることができる体制の充実を図ることが重要です。

(7) 子育て支援に関する情報の入手先

《アンケート結果》

- 子育て支援に関する情報の入手先について、「SNS・インターネット」、「幼稚園・保育所（園）・認定こども園・学校」、「親族・友人・知人」の割合が上位となっています。

【図表3-55 子育てに関して困っていること・悩んでいること（ニーズ調査）】



《課題》

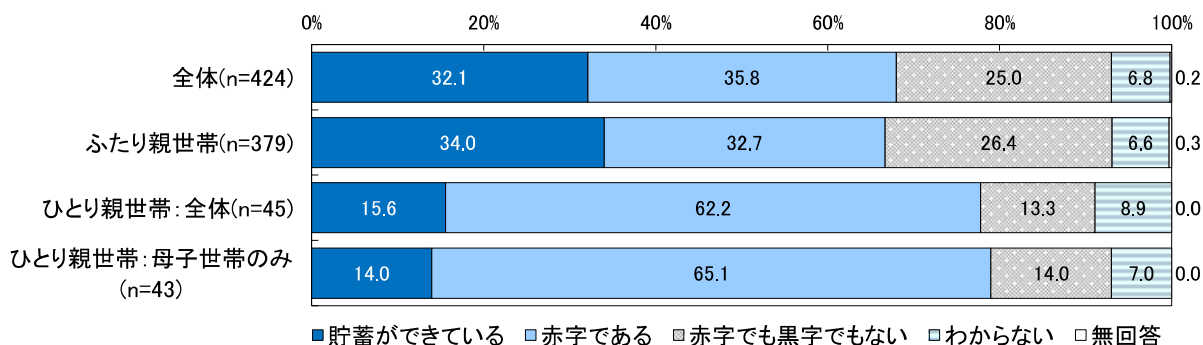
- 認知度が低い事業があることから、サービスを広く周知するとともに、SNS等、今後も効果的な情報提供方法を検討し、充実を図ることが重要です。

(8) 保護者の経済的状況

《アンケート結果》

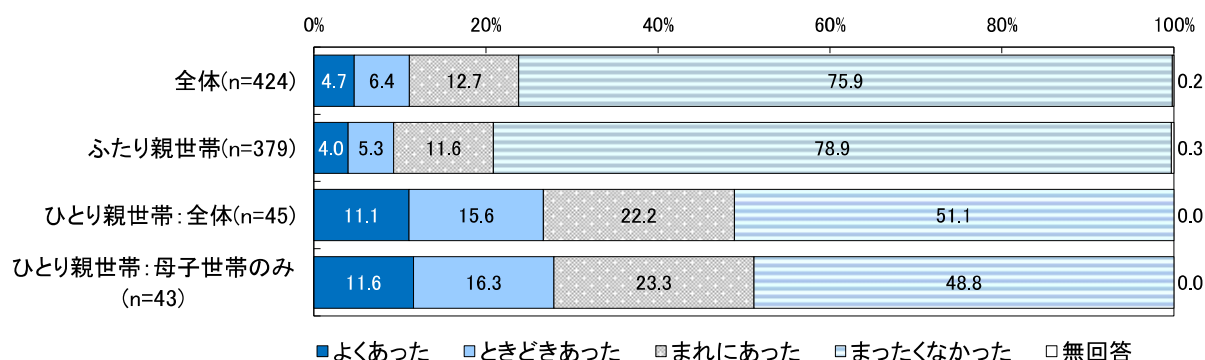
- 中学生の家庭において、経済状況が「赤字である」と回答した割合が、ひとり親世帯で6割を超えています。

【図表3-56 経済状況（中学生・世帯状況別/ニーズ調査）】



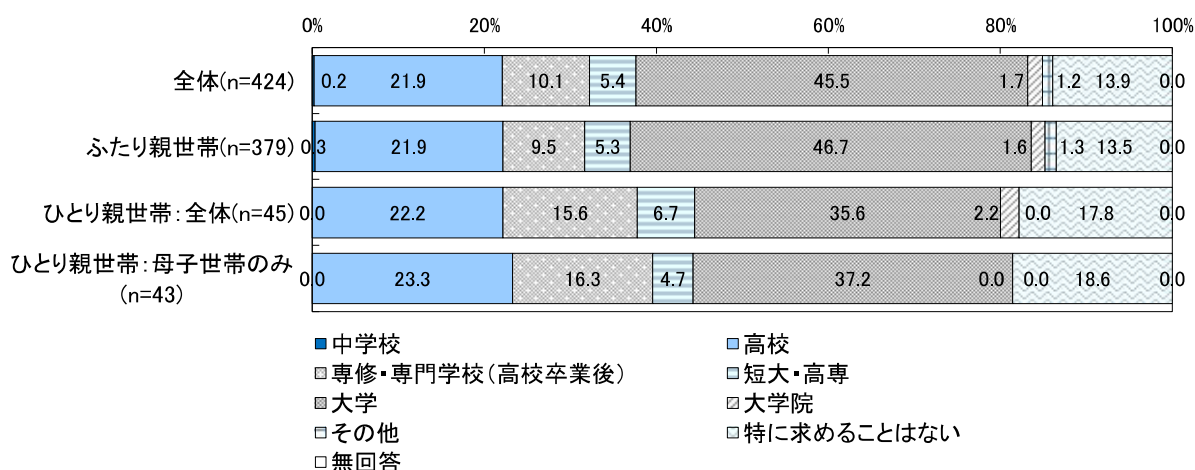
- 経済的な理由で食料を買えなかった経験が『あった』（「よくあった」＋「ときどきあった」＋「まれにあった」）と回答した割合が、ひとり親世帯で5割前後となっています。

【図表3-57 経済的な理由で食料を買えなかった経験（中学生・世帯状況別/ニーズ調査）】



- こどもの将来の希望進路として『大学以上』（「大学」＋「大学院」）と回答した割合が、ひとり親世帯で3割台となっています。

【図表3-58 こどもの将来の希望進路（中学生・世帯状況別/ニーズ調査）】



《課題》

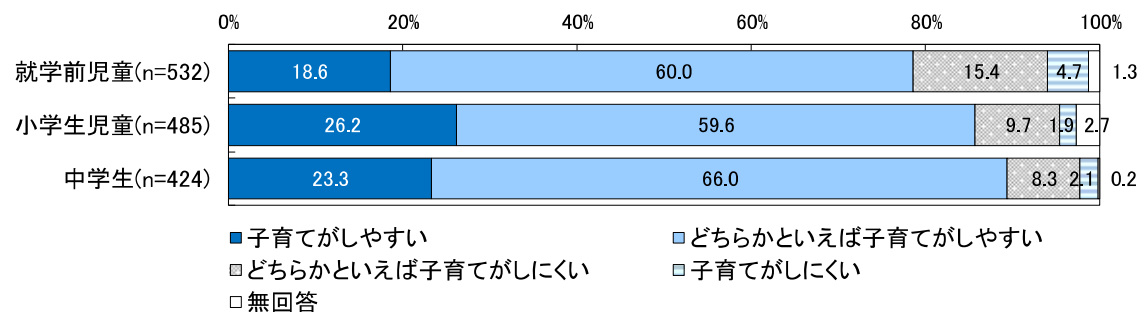
- 経済的に苦しい状況にある家庭があることから、経済的困難にある世帯やひとり親世帯の生活実態を把握し、必要なサービスや支援につなげる体制をさらに強化することが重要です。

(9) 子育てのしやすさ

《アンケート結果》

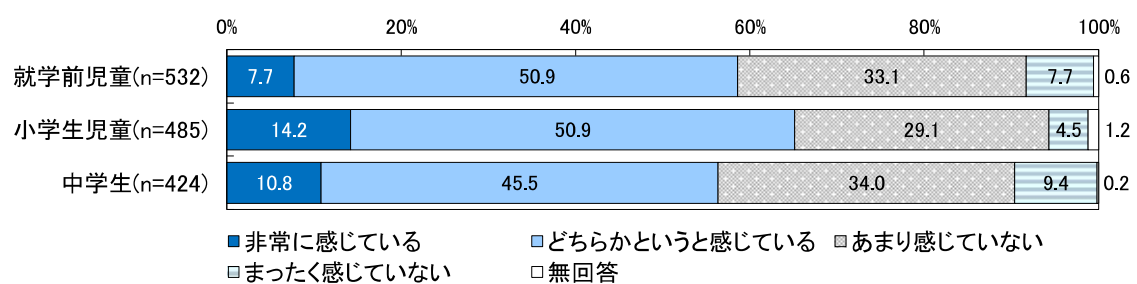
- 総社市の子育てのしやすさの評価について、『子育てがしやすい』（「子育てがしやすい」＋「どちらかといえば子育てがしやすい」）と回答した割合は就学前児童で78.6%，小学生児童で85.8%，中学生で89.3%となっています。

【図表3-59 総社市の子育てのしやすさの評価（ニーズ調査）】



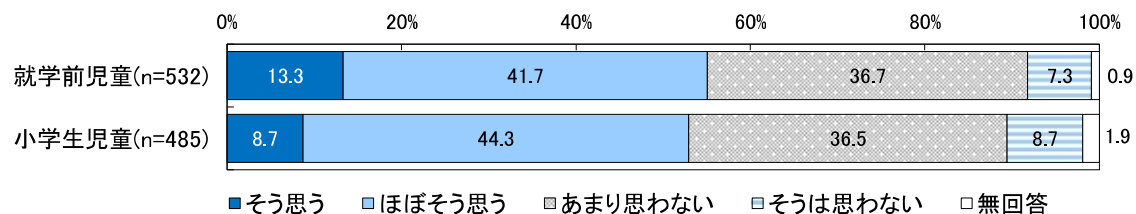
- 子育てが地域の人々や社会全体に支えられていると『感じている』（「非常に感じている」＋「どちらかというと感じている」）と回答した割合は就学前児童で58.6%，小学生児童で65.1%，中学生で56.3%となっています。

【図表3-60 子育てが地域の人々や社会全体に支えられていると感じるか（ニーズ調査）】



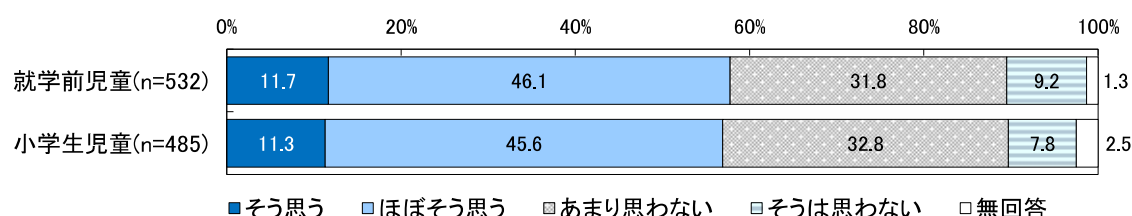
- 子育て支援に関する相談体制が充実していると『思う』（「思う」＋「ほぼ思う」）と回答した割合は就学前児童で55.0%，小学生児童で53.0%となっています。

【図表3-61 子育て支援に関する相談体制の充実度（ニーズ調査）】



- 子どもの健康づくりを支援する体制が充実していると『思う』（「思う」＋「ほぼ思う」）と回答した割合は就学前児童で57.8%，小学生児童で56.9%となっています。

【図表3-62 子どもの健康づくりを支援する体制の充実度（ニーズ調査）】

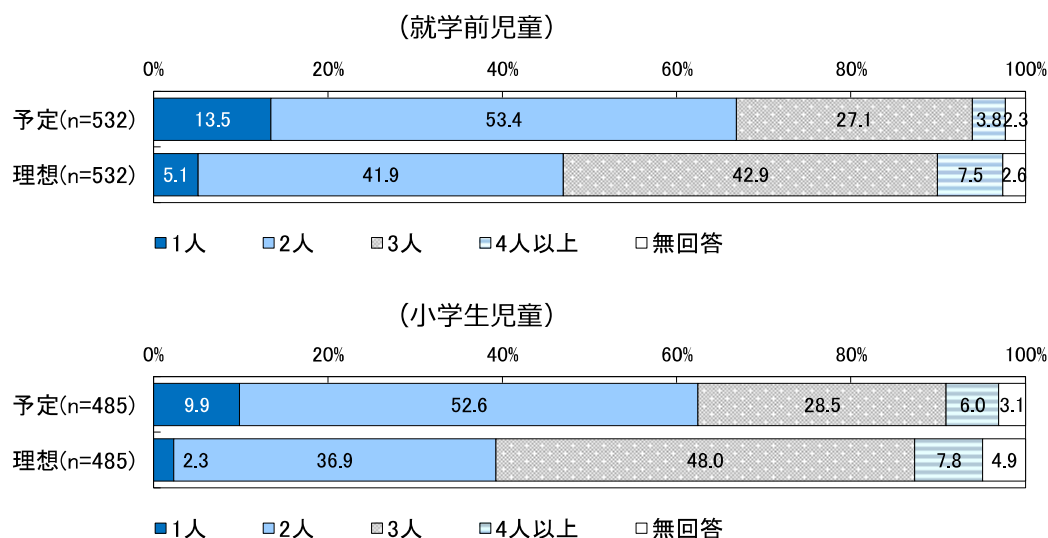


(10) こどもの今後の予定の人数と理想の人数

《アンケート結果》

- 理想のこどもの数より、予定のこどもの数が少ない人数の割合が高くなっています。

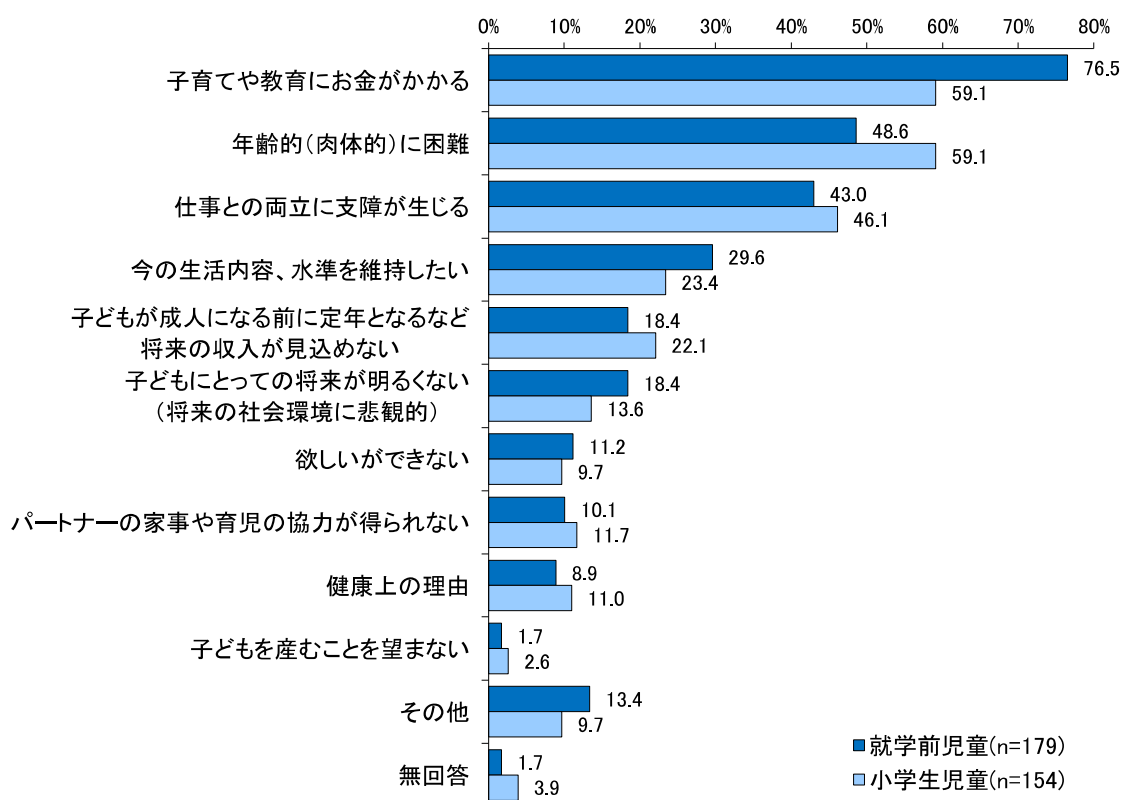
【図表3-63 こどもの今後の予定の人数と理想の人数（ニーズ調査）】



※予定の人数は、「現在のこどもの人数」と「今後の出産予定人数」を合わせた数値

- 理想とすることどもの人数を実現できない理由について、「子育てや教育にお金がかかる」、「仕事との両立に支障が生じる」が上位となっています。

【図表3-64 理想とすることどもの人数を実現できない理由（ニーズ調査）】



《課題》

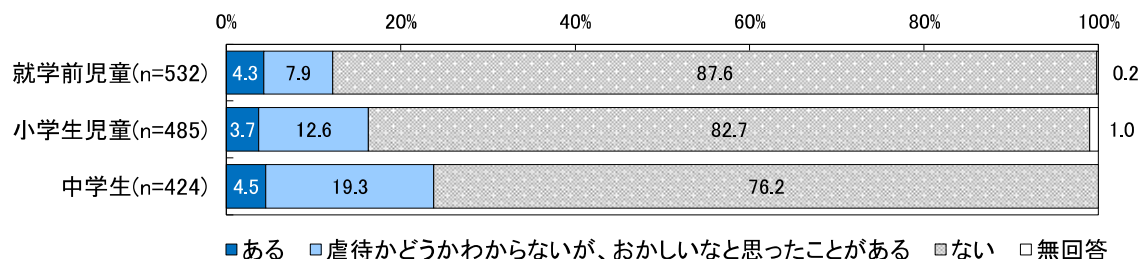
- 総社市が『子育てがしやすい』と評価する割合は高くなっていますが、理想のこどもの数より予定のこどもの数が少なくなっており、その理由として経済的理由や子育てと仕事の両立の困難さが上位となっていることから、今後もさらに、子育て家庭の経済的負担の軽減や仕事と子育ての両立支援の充実を図ることが重要です。

(11) 児童虐待を見聞きした経験

《アンケート結果》

- 虐待を見聞きした経験があると回答した割合は就学前児童で4.3%，小学生児童で3.7%，中学生で4.5%，「虐待かどうか分からないが、おかしいなと思ったことがある」と回答した割合は就学前児童で7.9%，小学生児童で12.6%，中学生で19.3%となっています。

【図表3-65 虐待を見聞きした経験（ニーズ調査）】



《課題》

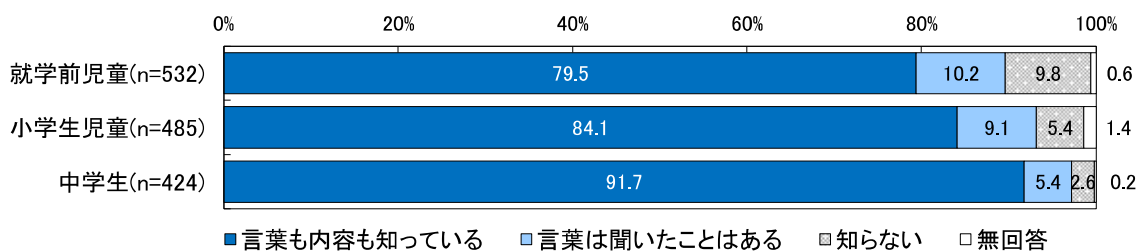
- 児童虐待に関する相談窓口の啓発や支援につなぐ体制づくりが重要です。

(12) ヤングケアラーという言葉の保護者の認知度

《アンケート結果》

- ヤングケアラーという言葉の保護者の認知度について、「言葉も内容も知っている」と回答した割合は就学前児童で79.5%，小学生児童で84.1%，中学生で91.7%となっています。

【図表3-66 ヤングケアラーという言葉の保護者の認知度（ニーズ調査）】



《課題》

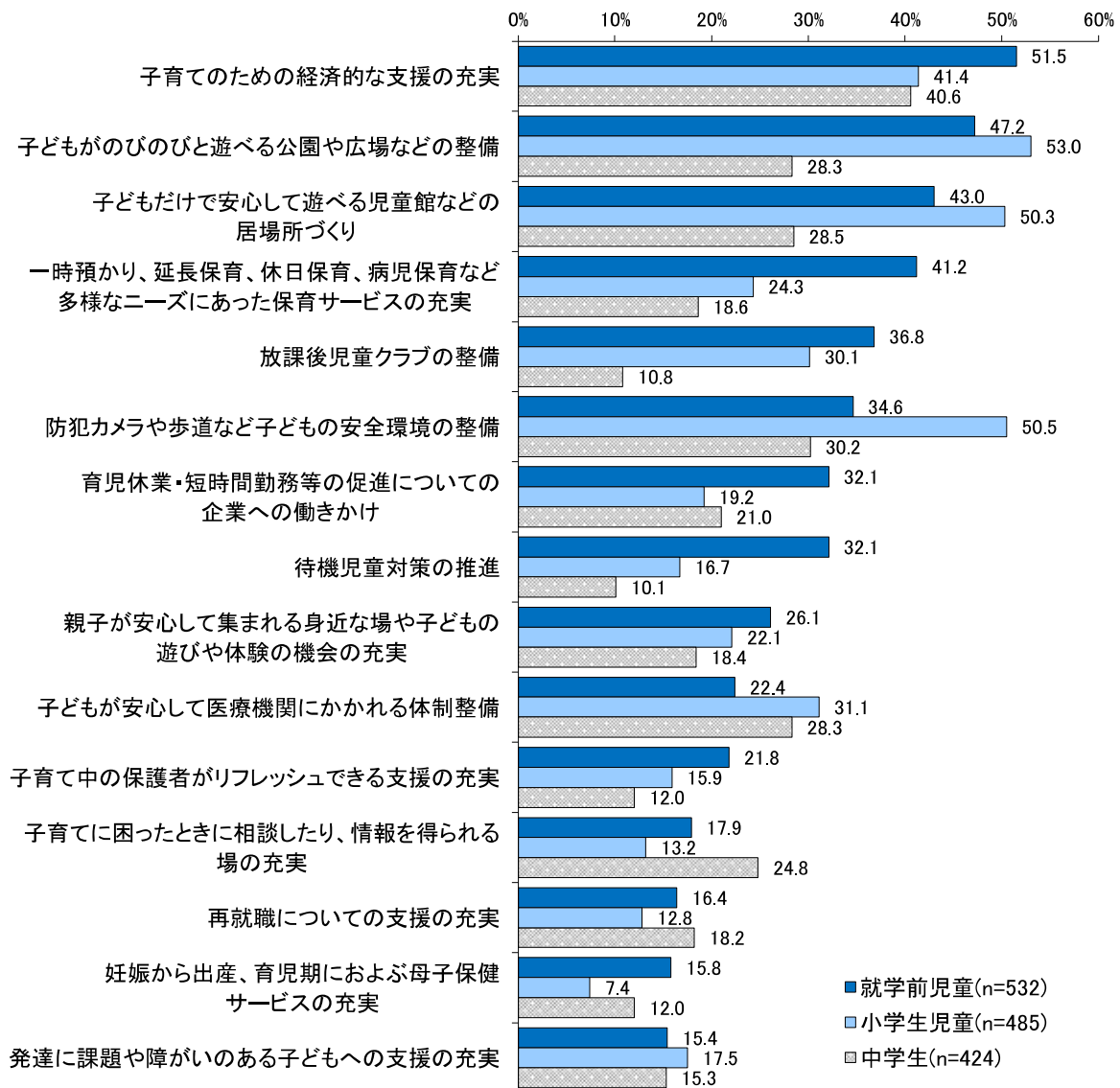
- ヤングケアラーに関して正しく理解するための啓発が重要です。

(13) 必要としていることや重要だと思う支援

《アンケート結果》

- 将来、必要としていることや重要だと思う支援について、「子育てのための経済的な支援の充実」、「子どもがのびのびと遊べる公園や広場などの整備」、「子どもだけで安心して遊べる児童館などの居場所づくり」が上位となっています。

【図表3-67 必要としていることや重要だと思う支援（上位15項目/ニーズ調査）】



4 子育て支援団体等からのヒアリング調査の結果

《目的》

ヒアリング調査は、アンケート調査による量的な調査だけでは把握が難しいニーズや課題など、市内のこどもを取り巻く状況について、主に支援者の側から意見聴取することにより把握する、質的な調査として行うことを目的に実施しました。

《子育て支援団体等》

- 主任児童委員
- NPO法人保育サポート「あい・あい」
- NPO法人きよね夢てらす
- NPO法人ほっとはあと
- 放課後児童クラブ
- 総社市青少年育成センター
- 児童発達事業所
- 総社市児童発達支援センター
- 総社市社会福祉協議会

《意見聴取まとめ（抜粋）》

質問項目	調査結果
家庭の環境について	・みんな生きるのに必死で、余裕がないのが現実であり、子育てを楽しむ・楽しめる世の中になればと切に望む。 ・家族間でのこどもへの関心や困り感の温度差があり、家庭でもできる事がなかなか実施できていない場合がある。 ・SNSを通じた、いじめの問題が深刻であると聞くと、最低限のルールをよく知らないまま、SNSを気軽に使ってしまうこどももいると思うため、大人も含めたルールの徹底等の勉強会等の必要性を感じている。 ・両親共働きで共に忙しく、こどもと関わる時間がないと感じている。
虐待について	・どこまでが「虐待」になるのか判断が難しいが、やはり生活、心にゆとりがないとイライラしてしまうのでは。 ・学童期には、こどものデリケートな心を傷つけないように、気を配っていかねばならないと思う。 ・子育てに不安や困難さを感じる保護者が、気軽に相談できるような窓口を増やす。

質問項目	調査結果
ひきこもりや不登校、登園しぶりについて	・どうして不登校なのかという疑問や偏見をもつのではなく、見かけたら声かけやあいさつを交わすことが大切であると思う。 ・こどもがそうなった場合、保護者も不安になると思うため、保護者の相談できる場所、連絡先など告知してあれば、相談しやすい。 ・いじめ等、明らかな原因がある場合は、その原因を取り除くことが必要であろうが、理由がはっきりしない不登校や登園しぶりの方が数多いように感じており、学校や園に行くことが絶対ではないことを確認した上で、まず保護者がこどもの気持ちをしっかり聞くことが大切であり、ひきこもりは精神的によくないと思うため、なるべく社会とのつながりを持てる場をつくる必要があると思う。
居場所について	・中高生、特に高校生以上のこどもたちの居場所が市内にはないため、こどもたちが気軽に來れて各々好きなように過ごせる場が市内にあればありがたい。 ・こどもに家以外の居場所が必要であり、若者が悩みを気軽に話せて聞いてくれる人がいる場所があればよいと思う。 ・何年か前からこどもの居場所づくりが課題になっているが、こどもが自由に集える場所をつくると、ある程度大人の目が行き届く必要があるため、民間でも公共でも、こども主体でルールを決めて利用できる場所をつくれればよいと思う。 ・個人が好きなことに共感してくれ、同様の趣味をもつ人が集まれるような、さまざまな居場所やオンラインでの居場所があるとよいと思う。
ヤングケアラーについて	・自分がヤングケアラーだと自覚（認識）しているのかが気になっており、家庭内の事であるためわかりにくく、隣人でも気づかないのではないかと思う。 ・「ヤングケアラー＝保護者が悪い、家庭が悪い」のような、その子の家族や家庭を否定しないように正しい知識や認識を広め、地域で支えられる体制をつくる。 ・家庭の中の問題なので、難しいところがあるが、ほんの少しのこどもの様子や言葉から抱えている問題を読み取れたらと思っており、学校が行う教育相談やその他のヒアリング、記述式のアンケートなどで把握するなど、公的な支援はもちろんだが、友だち、近所など地域の力を支援に結び付けたらよいと思う。

質問項目	調査結果
貧困について	・貧困とまでは言えなくても、それぞれの家庭の経済格差を感じることはある。 ・貧困はヤングケアラー、虐待、犯罪等につながる根底になっていると思う。 ・子ども食堂について、小学校区に1か所ずつできれば、こどもだけでも行けるので、より利用につながる可能性があると思う。
障がいのあるこども・若者について	・発達障がいのあるお子さんと地域のこどもたちが上手に関わり、一緒に遊べるよう、学校外（放課後や登下校中）、大人の目が届いたり問題解決できるような支援ができればよいと思う。 ・障がいのあるこどもの保護者について、仕事の件もあり、両立の難しさを抱える大きさなどは、顔を合わせるたびに思う事であり、まず、じっくり相手の方の話を聞くように心掛けている。 ・思春期を迎えるこどもたちに自分の障がいとの向き合い方を伝えていくのが難しく、それまでに自分の強みが自覚でき、成功体験を積み重ねて自己肯定感を感じられるようにする必要がある、それを支える信頼できる大人の存在が必要。（家族、学校の先生、習い事の先生など）
外国につながる（外国籍）のこども・若者について	・両親が外国籍のこどもが年々増えており、日本語が話せない両親との会話は、スマートフォンのアプリでの通訳をととしてもなかなか難しいものがある。 ・保護者が外国籍の方は日本の常識は通用せず、細やかな配慮が必要であり、説明もかみ砕いてわかるまで伝えなくてはならない。 ・外国籍の方々と地域住民との交流事業を大切にしたい。
こども・若者の犯罪について	・犯罪（万引き、放火、器物損傷、強迫、暴力など）が年々低年齢化しており、警察との連携が必要である。 ・犯罪防止の観点からも、こどもの居場所づくりが必要だと思う。 ・こどもが「大切な存在の1人」と感じられるように地域全体で見守り、日頃から声かけを行う。

